

平成 8 年度 (1996)

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
第 2 回総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会

北海道大会報告

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

北海道大会 開会式



来 賓



主 催 者



文部省 日向 信和 先生



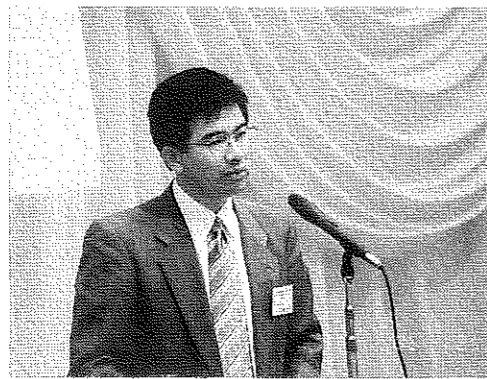
文部省 河野 公子 先生

講演会



厚生省 澤田 信子 先生

全体報告会

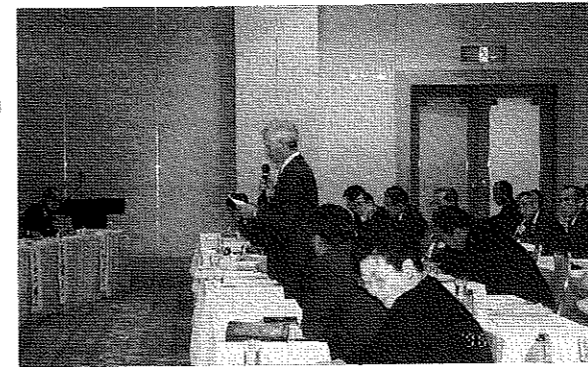


岩手県立一関第二高等学校教諭
矢幅 清 司



北海道函館大妻高等学校教諭
池田 延 己

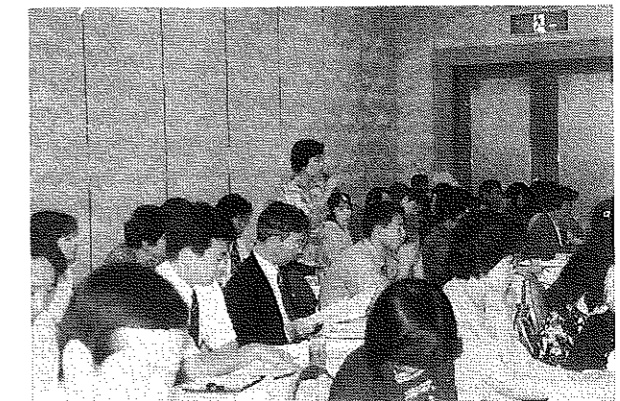
校長部会



主任部会



発表者 右より
北海道釧路星園高等学校教諭
佐々木 幸 子
岩手県立一戸高等学校教諭
佐々木 徹
青森県東奥学園高等学校教諭
田 中 泰 恵



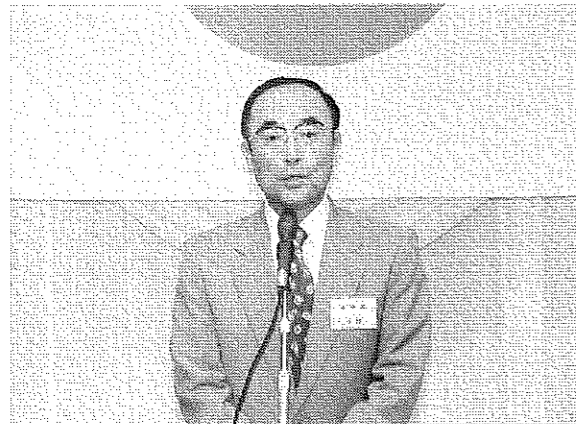
部会報告(閉会式)



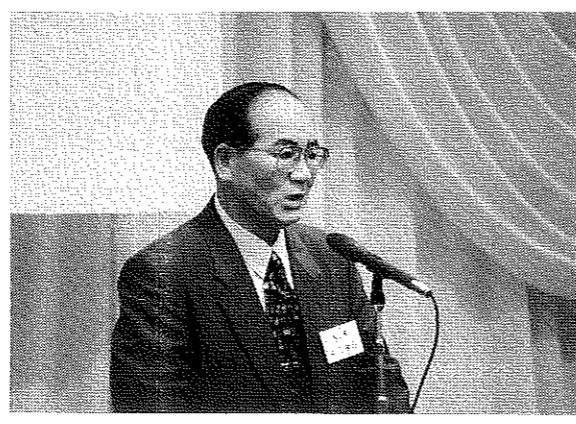
岡山県岡山女子高等学校長
丸山哲朗



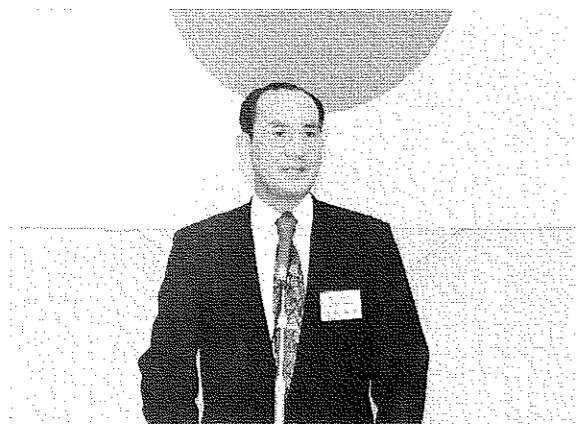
福井県立大野東高等学校教諭
小林香代子



全国高等学校長協会
家庭部会 理事長 大塚雄一



全国福祉科高等学校長会
会長 井上輝之



主管校 北海道釧路星園高等学校長
渡部義徳



次期主管校 福井県立大野東高等学校長
前田孝

目次

平成8年度 北海道大会の概要	2
来賓・主催者・主管校代表者	3
あいさつ「脚下照顧の地味で着実な前進に向けて」	
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 井上輝之	4
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員	5
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会総会 及び学科主任研究協議会会場地区一覧表	5
理事会	6
開会行事	6
講演会「福祉教育に期待されるもの」	
厚生省社会・援護局施設人材課 介護技術専門官 澤田信子	8
全体報告会	9
総会・研究協議会(校長部会)その1	12
研究協議会(主任部会)その1	17
研究協議会(校長部会)その2	19
研究協議会(主任部会)その2	21
部会報告	23
指導講評	24
文部省初等中等教育局職業教育科教科調査官 河野公子	24
閉会行事	24
北海道大会を終えて	25
北海道釧路星園高等学校長 渡部義徳	25
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約	28
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧	29
あとがき(諸連絡)	34

平成8年度北海道大会の概要

- 1 研究主題 高等学校福祉教育の充実と発展をめざして
— ひびく・ひらく高校福祉教育の出発 —
- 2 期 日 平成8年7月24日(水) <理事会>
平成8年7月25日(木)・7月26日(金)
- 3 主催等 主催 全国高等学校長協会家庭部会
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
後援 北海道教育委員会
北海道釧路市教育委員会
北海道高等学校長協会家庭部会
主管 北海道釧路星園高等学校
- 4 会 場 釧路パシフィックホテル(釧路市栄町2-6) ☎0154-24-8811
- 5 基本日程

7月24日(水)	15:00 15:30 17:30									
	受付		理事会 (ロイヤルルーム)							
7月25日(木)	9:00 9:30 10:15 12:00 13:00 14:30 17:00 18:00 20:00									
	受 付	開会行事 (飛鳥の間)	講演会 (飛鳥の間)	昼食	全体報告会 (飛鳥の間)	15:30 総会 研究協議会 (白鳳の間)		休 憩	交流研修会 (白鳳の間)	
						研究協議会 (飛鳥の間)				
7月26日(金)	9:00 10:00 11:00 11:30 12:30 15:30									
	研究協議会 (白鳳の間)	部会報告 指導講評 (飛鳥の間)	閉 会 行 事	12:20 昼 解		教 育 視 察				
				食 散	湿原展望台・鶴公園					

6 参加校(者) 60校 (106名)

来賓・主催者・主管校代表者

① 来 賓

文部省初等中等教育局職業教育課企画調査係長 日向信和
文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官 河野公子
厚生省社会・援護局施設人材課介護技術専門官 澤田信子
北海道教育委員会教育長 (南原一晴)
北海道教育委員会生涯学習部指導参事 原山勉
北海道教育委員会釧路教育局長 小野寺守彦
北海道教育委員会釧路教育局高等学校指導班主査 大沼寛
北海道釧路市長 (鰐淵俊之)
北海道釧路市教育委員会教育長 角田憲治
北海道高等学校長協会家庭部会長 (本間正啓)
北海道江別高等学校長 冨家雄治
北海道高等学校長協会釧路支部長
北海道釧路湖陵高等学校長

※()は欠席者を示す

② 主 催 者

全国高等学校長協会家庭部会理事長 大塚雄一
全国高等学校長協会家庭部会長 井上輝之
福祉科高等学校長会会長 堀内八郎
全国高等学校長協会家庭部会事務局長

③ 主管校代表者

北海道釧路星園高等学校長 渡部義徳

あいさつ

脚下照顧の地味で着実な前進に向けて

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長
井上 輝之

私は、地区理事8人の校長先生と家庭部会事務局の先生方の御指導をいただき、また本会事務局の先生方の御協力を得て、会長の任を務めてまいりました。そして、何とか、ここ生涯学習都市釧路市において文部省、厚生省の先生方並びに、多くの地元教育関係者を御来賓にお迎えして、主管校釧路星園高校のお世話を頂き、盛大に第2回総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会が開催できましたことを大変うれしく思います。

尚、本会への加盟校は、平成7年度から、さらに25校の加盟を得て98校となりました。(内容は学科52、コース30、系列14、その他2)

介護福祉士受験資格を有する教育課程を用意する学校は62校(63%)となっております。

1 総会・研究協議会から

(1) 福祉部会として独立できないか

このような意見が述べられましたが、御意見は貴重に受け止めたいと思います。しかし、本校長会の設立の経緯・趣旨から申しまして、将来、発展的事実としては組織の独立を期待しますものの現状では時期尚早であります。設立してまだ2年と歴史の重みはなく、本会の事実をよく脚下照顧しながら、数は力なり、継続は力なりを深く認識し当面は組織の拡大・充実を粘り強く地味に努力する必要があると考えます。

また、本校長会の任務は多岐にわたり、課題も山積みしておりますが、どの課題をとりあげても即解決できるものは有りません。よって独立することが課題解決につながるという考えは拙速主義におちいることであり、短絡的で性急な結論を導きだすこととなります。

(2) 全国学科主任代表者会議について

この内容は、平成8年度第2回理事会で了承され総会で会長が提案し条件付で承認されました。福祉科教育の推進・充実のためには、その役割は校長会と学科主任会は車の両輪的機能を持つと考えます。しかし、効果的役割を果たすためには、調和と均衡が保たれな

ければなりません。

学科主任会の意欲的で前向きな姿勢は十分、校長会としても受け止め、かつ積極的にその活性化に努力する必要があると認識しております。

ただし、次の条件を前提とするものであり、会は決定権を有する機関ではありません。

ア この会の内容は常に事務局長(並びに関係代表者)が校長会理事会に報告すること。(内容によっては承認を得ること。)

イ この会の開催は福祉科校長会会長名をもって召集する。

2 国の動向に関して

この総会と時を同じくして、7月19日第15期中央教育審議会が審議のまとめを発表しました。

御案内のとおり第一小委員会は、「子供に生きる力」と「ゆとり」をキャッチフレーズに掲げ、「生きる力の育成」その実現のため、ゆとりある教育環境による教育活動の展開を提言しております。

今後、検討が進められる第二小委員会の内容は「国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育のあり方。」であることが示されております。諮問文の理由に、高齢化や少子化の社会変化を指摘しながら、第二小委員の検討課題からも高齢化、少子化に焦点を当てた福祉が除かれているのは非常に残念でなりません。

第15期中教審のまとめ、その結果を踏まえ「教育課程審議会」が7月27日発足しましたが、私は次の学習指導要領改定の基本的な方向付けが主眼となると思いますが、この機を失することなく、学習指導要領への福祉科が法的に位置付けられることを大きく叫び要望するものであります。

そのために、今回の貴重な数かずの調査研究資料が、全国の福祉科教育の実態、実情を明らかにするものとして、文部省をつうじ大いに生かされることを期待するものであります。

また、「教育職員養成審議会」が7月29日発足いたしました。時代の変化に沿った免許法の改正等骨太の提言を望みたいと存じます。

おわりに、大きな成果を挙げた総会は、主管校に大変な御苦勞・負担をおかけしました。手作り・質素なる開催を、お願いしましたがその意味でも今回の総会は渡部校長先生に先導的役割を果たして頂き深く感謝しております。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員

役職	地区	氏名	学校名	都道府県名
会長		井上 輝之	県立不動岡誠和高等学校	埼玉
理事	北海道	渡部 義徳	市立釧路星園高等学校	北海道
理事	東北	菅野 純孝	県立一関第二高等学校	岩手
理事	関東	齊藤 二郎	県立古河第二高等学校	茨城
理事	北信越	前田 孝	県立大野東高等学校	福井
理事	東海	酒井 玲子	県立大垣桜高等学校	岐阜
理事	近畿	伊藤 誠	県立日高高等学校	兵庫
理事	中国・四国 (当分の間)	丸山 哲朗	岡山女子高等学校	岡山
理事	九州	中村 義行	杉森女子高等学校	福岡
監事	関東	本田 良夫	県立松戸矢切高等学校	千葉
		安野 弥一郎	県立真岡北稜高等学校	栃木

全国福祉科高等学校長会総会及び学科主任研究協議会会場地区一覧表

ブロック	北海道地区 (北海道)	関東地区 (茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 山梨 東京 神奈川)	東海地区 (静岡 愛知 岐阜 三重)	中国地区 (鳥取 島根 岡山 広島 山口)	九州地区 (福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)
	東北地区 (青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	北信越地区 (新潟 富山 石川 福井 長野)	近畿地区 (滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	四国地区 (徳島 香川 愛媛 高知)	
回・年度					
1	平成7年		東海 (三島高)		
2	平成8年	北海道 (釧路星園高)			
3	平成9年				
4	平成10年				九州 (玉木女子高)
5	平成11年			中国 ()	
6	平成12年		近畿 ()		
7	平成13年	東北 ()			
8	平成14年				関東 ()

※平成10年の主管校は予定です。

理事会

平成8年7月24日(木)

15:30~17:30 釧路パシフィックホテル
ロイヤルルーム

はじめに

霧の街釧路、丹頂の里くしろ、心にやさしいロマンの街。「幣舞橋」に近いホテルの一室において、家庭部会代表3名、地区理事8名、監事2名、福祉部会代表1名、主管校1名、計15名の列席のもと、第2回総会に関わる運営の一切について協議が進められた。

会の状況

司会(丸山哲朗)。開会のことば(伊藤誠)。あいさつ(大塚雄一、堀内八郎、渡部義徳、井上輝之)。自己紹介。

報告事項

- 1 事務局から加盟校について報告。
平成7年度73校。平成8年度98校。
- 2 大会実施要項について渡部理事から説明。
- 3 学科主任部会の進行について確認。

協議事項

- 1 平成7年度事業について報告 - 承認される
- 2 平成7年度決算について報告 - 承認される
- 3 平成8年度事業計画について提案 - 審議の結果承認される。
- 4 平成8年度予算について説明 - 審議の結果承認される。
- 5 平成9年度、10年度の役員選出について、現理事が継続。後任を推せん。来年度全国校長会の2日目に会を設定し、平成9年度、平成10年度理事を決定することについて確認。
- 6 要望書起草案作成については草案委員会で。文部省及び厚生省に「福祉科の充実振興に関する要望書」を提出。
- 7 介護福祉士の資格取得状況及び学校週完全5日制に対する対応策。
○必修教科・科目の弾力的運用。

「介護福祉士の受験資格」に関わる問題なので、今後、慎重な対応が必要。

- 資格のランク、専攻科につなげる等については考えない。
 - 資格要件の緩和の働きかけについては慎重な対応が必要。
- 8 情報コーナーの設置について
展示する。昨年度の報告書については販売する。
 - 9 次期開催について
前田理事から主管校(大野東高等学校)、開催予定月日(平成9年10月8日、9日)、地域の紹介等について説明。
 - 10 平成10年度の開催地区理事からの要望
中国・四国地区で担当していただけないだろうか。今後検討。
 - 11 オブザーバーとしての参加の承認について
 - 12 その他
○来年度にむけて
会長校が事務局を担当。現会長で努力
○主任部会の代表者会議の開催について検討

開会行事

25日(木) 9:30~10:15 飛鳥の間
司会進行 中村 義行

- 1 開会のことば
岩手県立一関第二高等学校長 (菅野 純孝)
- 2 主催者のあいさつ
全国高等学校長協会家庭部会理事長 (大塚 雄一)
多数の来賓のご出席を賜り、35都道府県からの参加で本会が開催できることを主催者として喜ばしく思う。
福祉科教育の推進において、指導者の育成、教科書の作成、資格、進路等の課題が多い。
本研究協議会が、文部省や厚生省の関係する先生方のご指導により、現場の体制の充実に資すると共に課題解決の糸口につながれば幸いである。
家庭部会では、文部省委託を受けて平成4年

度から「産業教育新技術等講習会」の中で福祉科介護福祉講習会を開催している。

本会の充実発展は3年めを迎えた男女必履習の中、家庭科教育、福祉科教育に寄与する部分が大変強くなってきているので期待している。

全国福祉科高等学校長会会長

(井上 輝之)

総会並びに研究協議会の開催を嬉しく思う。
7月の中央審議会答申の中で小委員会等での審議事項に高齢化問題が取り上げられず残念に思う。しかし、社会のニーズに応えるように全国で福祉系の学科等を設置する高等学校が急増している。現在145校ある。
福祉科教育の課題は、関係法令上の法の位置づけ、学習指導要領への位置づけ、教育養成制度の確立、免許法の問題等である。これらの課題解決のために本大会が実り多い大会であることを期待する。

3 来賓祝辞

文部省初等中等教育局職業教育課企画調査係長 (日向 信和)

社会経済の変化の中で高等学校教育の大きな変革の時期にあり、平成7年3月には職業教育の活性化、方策に関する調査研究協議会からスペシャリストへの道と題する最終報告が出された。専門高校3年間の教育は卒業後も継続的な教育を視野に入れて、将来のスペシャリストになるための基礎基本の習得を重点に示している。
高齢化社会に向かい福祉サービスに従事する人材確保と資質の向上が求められている。高等学校福祉科設置は、福祉業務に従事する人材の育成、基礎的社会福祉教育による生徒の社会福祉への関心と理解や人命尊重の人間教育がなされ意義がある。この会議が実り多きものとなるよう祈念する。

厚生省社会援護局施設人材課介護技術専門官 (澤田 信子)

福祉系高校の介護福祉士国家試験合格者も2000人を越え、合格率も年々上がってきている。介護福祉士の4.4%の割合ではあるが高校生の可能性を示す、すばらしい結果と認識している。今年度国家試験日は1月26日、実技試験が3月9日、合格発表が校長会から年度内発表のご要望を受けて、3月31日とした。

厚生省では新ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プランの3つの施策ができた。これらの施策を実現する鍵となるものは真にマンパワーである。現在79,940人の介護福祉士が誕生し、在宅福祉、シルバーサービスの各分野で中核的存在として活躍している。今後も国民にこころえ得る人材の育成に努められ、介護サービスの質の向上と福祉の増進にご尽力をお願いする。

北海道教育庁生涯学習部指導参事

(原山 勉)

本校長会は昨年10月、学科、コース等73校の加盟で第1回が開催され、今回100以上の高校が集まり2回めとのことである。
国民誰もが生涯を通じて心豊かに暮らして行ける活力のある社会の実現が求められている。このような状況の中、心豊かな福祉の心の育成やホームヘルパー、介護福祉士の資格をめざして関係高等学校長が一堂に会して当面する課題を研究協議されることは期待されることである。本会の発展、充実を祈念する。

北海道釧路市教育委員会教育長

(角田 憲治)

地元釧路星園高校が時代のニーズに合わせてH4年にスタートし、7年度、8年度と介護福祉士の方もそれなりの成果を上げている。福祉科は教科書もなく、教員も明確でなく、施設設備も充実していない等、大変であったが順調に推移してきているように思う。
福祉課程をどのように持って行くかは全国の学校や大会を組織化していくことが大事で、本年2回目を迎えることを心から喜んでいる。
普通教育やあらゆる高等学校の課程でも福祉の心を養うことが必要である。更なる発展を期待する。

4 来賓紹介

5 主管校あいさつ
北海道釧路星園高等学校長

(渡部 義徳)

6 閉会のことば
茨城県立古河第二高等学校長

(齊藤 二郎)

講演会

平成8年7月25日(木) 10:15~12:00
飛鳥の間(3階)

「福祉教育に期待されるもの」

厚生省社会・援護局施設人材課
介護技術専門官 澤田 信子氏

※プロフィール

- 平元. 3 放送大学教養学部「発達と教育」卒
3. 3 同 「生活と福祉」卒
3. 3 日本社会事業学校研究科卒
8. 7 日本社会事業大学大学院博士課程在籍
- 昭49. 4 町田市立高等看護学院(専任教員)
52. 8 神奈川県立病院附属看護専門学校
(専任教員)
59. 4 神奈川県立平塚看護専門学校
(専任教員)
- 平3. 4 医療法人同愛会(医療・福祉コーディネーター)
6. 4 厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保対策室介護技術専門官

講師紹介(謝辞) 井上 輝之(会長)

はじめに

- ・澤田氏の経歴の中から得た人生観、高齢化社会に対する考えを述べられた。
- ・介護福祉士のモデルともいえる、マザー・テレサの言葉を引用し、優しい物の見方について話された。一人ひとりの優しい言葉・行動によって、誰かが居心地が良くなる事が大事である。
- ・現在の日本の高齢化社会は、高齢者が高齢者を看たり、介護者の約85%が女性であること、家族の負担過重等、多くの問題がある。利用者、家族の立場で考える必要がある。

A. 諸プラン等からみた社会福祉の動向

1. 「高齢者保健福祉推進十か年戦力(ゴールドプラン)」
 - ・健康で生き甲斐を持って安心して暮らせる。
2. 「21世紀福祉ビジョン~少子・高齢社会に向けて~」
 - ・国民一人ひとりが幸福を実感できる社会
3. 「新ゴールドプラン~21世紀の明るい長寿」
 - ・福祉社会をめざして~
 - ・基本理念
 - ①利用者本位・自立支援
人間として尊厳が保たれ、一人ひとりのケアプラン、個別性が重要視される。
 - ②普遍主義
必要とする全ての人に対して行われる。
 - ③総合的サービスの提供
その人にとって必要なサービスが一つの窓口で受けられるようにする。
 - ④地域主義
風土や地域の特性に応えられるものである。
4. 「エンゼルプラン~今後の子育ての支援のための施策の基本的方向について~」
 - ・子供や高齢者に優しい街づくり
 - ・ボランティア体験などを通じて子どもが豊かな人間性を育めるような家庭や社会の環境づくり
5. 「社会保障体制の再構築に関する勧告~安心して暮らせる21世紀の社会を目指して~」
 - ・国民の自立と連帯
 - ・担い手づくりのために学校における福祉教育が重要である。
6. 「障害者プラン~ノーマライゼーション7か年戦略~」
 - ・人間としてあたりまえの生活をして行ける
7. 「介護保険制度案大綱について(答申)」
 - ・高齢者の介護不安……自立に向けて社会として支援する
 - ・本人の希望によりサービスを選択できる

- ・チームを組んで介護と医療が対等に協力体制を組む

B. 介護福祉士について

1. 福祉法の性格
 - ・名称独占の資格
 - ・実務経験を生かした資格
2. 介護福祉士資格取得者の推移
 - ・平成元年 3,073人
↓
・平成8年 79,940人
3. 介護福祉士養成施設の推移
 - ・昭和63年 24校
↓
・平成8年 214校
4. 資格取得法
 - ・養成施設を卒業と同時に取得できる
 - ・国家試験受験
5. 介護福祉士国家試験合格者の職種別内訳
 - ・社会福祉施設の寮母等 76.8%
 - ・ホームヘルパー 17.6%
 - ・家政婦 0.4%
 - ・その他 5.2%

C. 福祉系高校の教育に期待する

1. 介護福祉士養成カリキュラムの特徴
 - ・生徒一人ひとりの可能性を引き出す
 - ・3年間で6~10年間の値がある。
2. 強化すべき教科等
 - ・介護を光らせるのは家政学である。
3. 介護福祉士養成校卒業生の声
 - ・相手の気持ちを理解することができる

4. 福祉系高校の人材育成に期待すること
 - ・理念を行動にする(品性が問われる)
 - ・理念と現実のギャップを埋める力を生み出す
 - ・介護福祉士に何が求められているのか、福祉の心を育てて欲しい。

質疑応答

- Q. 高校でホームヘルパー1級の取得は可能であるか?
- A. 1級取得の例はある。
但し、高校生の年齢で在宅において一人で判断する能力があるかどうか。ベテランのヘルパーでも訴訟問題が持ち上がった例もある。一人ひとり病気等異なるので総合的に判断できるか、利用者の責任が取れるか、個人的には疑問を持っているが、現在は従来通り、取得可能である。

全体報告会

25日(木) 13:00~14:30 飛鳥の間

1. 全国福祉科高等学校基礎調査の分析結果について

岩手県立一関第二高等学校教諭
矢幅 清司

平成7年度に設立された全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会の加盟校74校に対して行った「全国福祉科高等学校基礎調査」(有効回答74校)と福祉教育の実践をしている未加盟校64校に対して行った「高校学校福祉教育実態基礎調査」(有効回答30校)の104校を合わせて集計し、その実態をまとめたものの分析である。

1. 高校福祉科の現状と課題

1. 現状

(1) 学校・学科

- ①設置する都道府県と学校数
 - ・全国44都道府県141校（未設置：山梨・和歌山・徳島）
- ②校長会加盟校：74校（H8：+24校、計98校）
- ③未加盟校：67校（H8：-24校、計43校）
- ④国家試験受験資格取得：68/141校（48%）
 - 加盟校：52/74校（70%）
 - 未加盟校：16/67校（24%）
- ⑤最近の傾向
 - 普通科（コース）・総合学科（系列）の新設。
 - 資格取得できる学校と取得しない学校に大別
- ⑥学科転換以前の学科と学科の位置付け、：家庭に関する学科が多い。

(2) 生徒

- ①在籍生徒数：6,924名（国試資格有：5,283名・無1,641名）
- ②選択希望：4,983名（国試資格有：691名・無：4,292名）

(3) 設置理由

- ①外的：高齢化社会の到来による社会福祉ニーズの多様化、マンパワーの養成。
- ②内的：学科改編、学校、学科の魅力ある特色作り、福祉系への進路の増加。
※安易な学科改編と思われるところも少なくない。（資格、生徒獲得等）

(4) 履修科目と単位数・資格

- ①国家資格有：39.6単位（多くがホームヘルパー1級）
 - 履修状況：保健 36/60校
 - 課題研究 26/60校
 - ※課題研究を履修する必要はない。
 - ※代替科目「社会福祉演習」
 - ※選択科目「家庭経営・住居」に注意必要
- ②国試資格無：21・7単位（ホームヘルパー2級・資格無しも多い）
 - ※新設科目を設定、ほとんどが家庭に関する科目で、統一されていない。

(5) 主な教材

- 福祉分野：改訂介護福祉士養成講座（中央法規出版：専門学校用）
- 看護分野：検定本、並びに同上
- 家庭分野：同上、同上
- ※検定本は、福祉と関連させて指導するには内容が合わない。

(6) 教員

①国試資格有	分野	単位	常勤教員数	非常勤教員数	教員数
	福祉	22	1.8名	0.4名	2.1名
	看護	8	0.8名	1.2名	2.0名
	家庭	8	1.9名	0.2名	2.1名
	全体	38	4.5名	1.8名	6.2名
②国試資格無	分野	単位	常勤教員数	非常勤教員数	教員数
	福祉	6	0.8名	0.2名	1.0名
	看護	2	0.3名	0.4名	0.7名
	家庭	14	1.9名	0.2名	2.1名
	全体	22	2.9名	0.8名	3.7名
③免許	分野	免許科目と割合			
	福祉	社会(45%) 家庭(24%) 福祉職員(6%) 養学(5%) 看護(4%)			
	看護	医療従事者(42%) 看護(38%) 家庭(2%)			
	家庭	家庭(100%)			

(7) 卒業生

- ①卒業生数：6,064名
 - 〔有：3,847名〕
 - 〔無：2,217名〕
- ②推薦枠：〔四大〕淑徳大学⑦・広島女子大学③・花園大学②・聖カタリナ女子大学②・日本福祉大学①・同朋大学①・四国学院大学①・西九州大学①・上智大学①
 - 〔短大〕龍谷大学短大部⑩・富山女子短大④・広島県立保健福祉短大③・九州大谷短大①・中九州短大①・長崎ウェスレアン短大①・鳥取女子短大①・岡崎女子短大①
 - 愛知文教女子短大①・愛知学泉女子短大①・愛知みずほ大学短大部①・佐賀女子短大①
 - 〔その他〕福祉、看護関係の専門学校等がある。

(8) 進路状況

- 国資有：福祉系進学24%・福祉系就職26%・病院23%
- 国資無：一般就職47%

(9) 介護福祉国家試験

- ①全体：合格率が定着（51～52%）
- ②福祉系高校：合格率が年々アップ・卒業生の96%が受験、5割以上が資格取得。

2. 高校福祉科の課題

- ①専門科目と教科書：高校生の福祉の学習に適し、授業単位数と科目名にあったもの。
- ②介護福祉士国家資格試験制度：すべての者が国家試験を受験することが望ましい。（専門学校も受験させる）
- ③介護福祉士資格：待遇の向上を図る。
- ④指導者：専門性を身につけた指導者の養成。免許・科目の学習指導要領への明記。研修の充実。
- ⑤設置校の状況：安易な学科転換、設置が見られる。指導内容や卒業後も考えた設置がされるべきである。
- ⑥進路問題：
 - （進学）大学・専門学校との内容の関係を検討。推薦枠の設定、福祉分野に関する入試制度の新設。
 - （就職）資格を持った中堅マンパワーとしての待遇保障を働きかける。
- ⑦各科目の充実・社会福祉実習：社会福祉実習のマニュアル化と実習内容の水準化。

II. 今後に向けて

- 1. 学習指導要領：「福祉科」の位置付け（教科書・教員免許）
- 2. 進路保障 進学：大学等への特別枠設置や特別入試の新設を要望。
就職：有資格者としての待遇保障
- 3. 試験制度：試験科目との整合性
- 4. 校長会の下部組織として各種専門委員会を設置し、課題をスピーディに解決
- 5. 最新の情報と詳細なデータを校長会として掌握し、積極的に働きかける。

2. 教科書編成の進行状況について

北海道函館大妻高等学校教諭
池田 延己

1. 教科書編集要望の経緯

平成5年11月埼玉県に集まった全国福祉系高等学校の先生方より教科書の問題提起がなされたことにより教科書を編集する方向付けがされた。

2. 「高等学校福祉科教科書」編集会議

- 第1回 平成7年12月5日
- 第2回 平成8年1月29日
- 第3回 平成8年3月25日
- 第4回 平成8年5月22日

現場の声を反映させた教科書を作成するために、全国校長会加盟校に教科書についてのアンケート調査を実施し、編集に生かして行くことにした。

3. 教科書の内容

中央法規出版刊行予定の「〈新訂版〉介護福祉士養成講座全15巻」の内容を網羅する。但し国家試験に対応できる内容で、さらに高校生が理解しやすい記述内容とする。また、初めて福祉を学ぶ学生のために基礎的内容について新規書き下ろしを加える。

4. 巻構成

- 全9巻とする。
- 第1巻「社会福祉基礎」
- 第2巻「社会福祉制度」
- 第3巻「老人介護」
- 第4巻「社会福祉援助技術」
- 第5巻「社会福祉実習Ⅰ」
- 第6巻「社会福祉実習Ⅱ」
- 第7巻「家庭」
- 第8巻「看護Ⅰ」
- 第9巻「看護Ⅱ」
- 5. 教科書の体裁
 - B5判、並製、横組み、2色刷り、ソフトカバー
- 6. 編集協力者並びに執筆者
 - 大橋謙策先生（日本社会事業大学教授）他
- 7. 発行予定時期

- 第1巻「社会福祉基礎」平成9年1月
第2巻「社会福祉制度」平成10年1月
8. 指導用資料集の作成
教科書と同時に指導書を発行
9. 目次構成
全国の先生方のアンケートに基づいて、目次構成を検討中。

総会・研究協議会(校長部会)その1

25日(木) 14:30~17:00 白鳳の間

〔総会〕

司会 酒井 玲子

1. 開会のことば

前田 孝

2. 会長挨拶

井上 輝之

第2回の総会を迎えることができ、心から感謝している。理事8名のうち4名が変わられているので、後ほど紹介させていただく。加盟校については、昨年が73校、今年度は新たに25校加わり98校となった。加盟校の分析をすると、公立79校・私立19校、介護福祉士受験資格取得校61校(加盟校の62%)となる。校長会が設立してから1年になろうとしているが、21世紀をみすえ今後の福祉科教育に役立てていけることを祈念する。

3. 来賓紹介

4. 議長選出(事務局に一任され、議長候補の提案が了承される。丸山哲朗。伊藤誠。)

5. 議事

〈報告事項〉

- (1)平成7年度事業報告 資料2-1
(2)平成7年度決算報告 資料3-1
(3)平成7年度監査報告 本田 良夫
監査の結果、適正に処理されていることの報告があった。

〈協議事項〉

- (1)平成8年度事業計画 資料2-2
(2)平成8年度会計予算 資料3-2
(3)役員について
①規約により2年で改選になるが、4名の理

事と2名の監事は、それぞれの学校の後任の校長先生にお願いしたい。(承認される。)

②理事会の開催時期が5月のため、改選時期ではあるが、地区別に話し合いがすすんでいる所など、このまま再任でよいだろうか。(承認される。)

(4)その他

①福祉科の教員として校長会に働きかけたい時に窓口がない。学科主任の代表者を組織することの必要性があるか、否か。(丸山哲朗)

・とりまとめる必要性があるのではないか。(井上会長)

・方向性として、教員の方から動きがあれば代表者会などの組織を許す。(丸山哲朗)

・代表者会ができれば、報告してもらい、独断で動くことはないように、連携をとってきたい。(井上会長)

6. 閉会のことば

安野 弥一郎

〔研究協議会〕

研究協議テーマ「福祉科(コース等)教育の充実と発展をめざして」

司会 伊藤 誠
丸山 哲朗

各学校から出てきた問題を、項目別にまとめたもの(資料1参照)

(1)福祉科専任教員の確保について

(古河第二高) 専門科目の指導者の確保
(静岡吉田) 看護分野の教員が少ない
(宮崎高原) 完成年度であるが、専任教員の採用が難しい

(司会・伊藤) 家庭科の教員を福祉科の教員にと養成してみたが、うまくいかない。

(松戸矢切) JRCを熱心にやっている教師だと教科に関係なくうまくいくのではないか。医学等は、地元の学科のある大学の先生にお願いするとよいのではないか。

(愛知高浜) 特別選抜で看護教員1名採用。制度として確保できた。

(司会・丸山) 県教育委員会が正式にやっている制度でしょうか。何か動機があったのでしょうか

(愛知高浜) どうしても必要な学科においては、

必要に応じて実施されている。

(福岡久留米筑水) 福岡県では衛生看護科がない。その他の学科として位置づけられているが、家庭科と同じ扱いでスタートした。やはり看護教員を確保するために、その他の教科・福祉を作り、その中の科目として位置づけた。看護教員3名は女性、福祉系大卒の教員1名は男性、実習助手1名も福祉系大卒の男性。

(北海道置戸) 看護教員は特別採用、福祉は福祉系の大学から。本庁と綿密な連絡をとりあって。

(広島黒瀬) 実習面を考えると、看護教員が必要。福祉系の大学を出て社会を教えている教員

(司会・丸山) 私立高校の立場から一言。看護教員が社会福祉科の主任になった。通信教育を受け社会福祉士の国家試験に合格した。教員の研修制度というか自助努力も必要であろう。

(福岡久留米筑水) 実習助手や教員の確保ということは、ぜひ文部省で学科の位置づけを明確にしてほしい。

(司会・伊藤) 文部省への要望は昨年に引き続き本年度も同じ内容でしていく。

(司会・丸山) この福祉科校長会として、今後どの様な動きをしていくか、具体的な提案をお願いしたい。

(若手一戸) 人材確保、学科主任会の位置づけ等制度上、現実的、地域面で問題を抱えている。家庭部会の中ではなく、福祉科単独の部会として訴えていくことが急務ではないか。

(函館大妻) 1. 中教審の答審で高齢化への対応にふれられていないので、校長会として明確に意見を表明する。2. 教育過程審議会の中で、福祉科のあり方を論議してほしい。以上の2点を、校長会の総意として決議して、文部省への要請をすればおのずと、福祉科校長部会の独立の道も開けるのではないか。

(会長) 家庭部会から独立することが、学習指導要領の位置づけをはやくするとは、短絡的である。将来は希望を持つとしても、時期尚早である。しかし、全国的な福祉科の動向を文部省の手元に届けて、しかるべき所に要求していくことは、校長会の組織として大事である。まだ設立して2年目ということで、課題の多い校長会であるが、皆様の協力をいただきたい。

資料1

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
第2回総会・研究協議会
並びに学科主任研究協議会(北海道大会)

校長部会・研究協議テーマ
「福祉科教育の充実と発展をめざして」

(1)福祉科専任教員の確保について

- 福祉科専任教員の確保が急務(北海道留寿都高等学校)
- 専門科目の指導者の確保(茨城県立古河第二高等学校)
- 免許外申請の必要性について(千葉県立松戸矢切・岐阜県立大垣桜高等学校)
- 福祉科職員の配当について(静岡県立吉田高等学校)
- 教員の確保(静岡県三島高等学校)
- 教員養成をどのようにするか(三重県立上野商業高等学校)
- 専門教師の採用状況について(宮城県立高原高等学校)

(2)福祉科教育の理念について

- 福祉科の目標等(静岡県三島高等学校)
- 資格を得ることが目的となってしまっているのではないか。専門学校とどういふところが異なるのか。(愛知県立高浜高等学校)
- 福祉科の将来展望と制度的な見直しについて(三重県立上野商業高等学校)

(3)学習指導要領における「教科」としての位置づけについて

- 家庭科に準ずる学科からの分離独立(岩手県立一戸高等学校)
- その他の学科の「福祉科」と家庭科の中の「福祉科」との功罪と、今後統一するなどの文部省としての見直し(新潟県立八海高等学校)
- 福祉部会として独立できないか(奈良県立榛原高等学校)
- 文部省で学科の位置づけを明確にしてほしい(福岡県立久留米筑水高等学校)

(4)実習施設の確保と実習のあり方について

- 施設実習について(静岡県三島高等学校)
- 実習施設と実習のあり方(愛知県立高浜高等学校)
- 実習助手の配置を制度化すること(岐阜県立大垣桜高等学校)
- 施設実習の謝礼について(広島県立黒瀬高等学校)
- 施設実習の期間、実施時期、謝礼等について(宮城県立高原高等学校)

(5)卒業後の進路にかかわる諸問題について

- 介護福祉士一次試験の免除を要望(愛知県立高浜高等学校)
- その他進路に関して以下の学校から(茨城県立古河第二高等学校)(静岡県立吉田高等学校)(静岡県三島高等学校)(愛知県立高浜高等学校)(三重県立上野商業高等学校)

(6)その他

平成 7 年度 全国高等学校長協会家庭部会 事業報告
福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
10月11日(木) ～ 10月13日(金)	総会（静岡大会）の開催	11日 理事会 12日 設立総会・全体会・研究協議会 13日 研究協議会 全体会
1月18日(木)	要望書の提出	文部省・厚生省（会長、他）
3月15日(金)	報告書の刊行	A 4、250部、42 P （うち、写真 6 P）

上記のとおり報告します。

平成 8 年 7 月 25 日

会長 井上 輝之

平成 8 年度 全国高等学校長協会家庭部会 事業計画
福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月23日(木)	北海道大会に向けて、その他	第 1 回理事会
7月24日(木) ～ 7月26日(金)	総会（北海道大会）の開催	24日 第 2 回理事会 25日 講演会・全体会・研究協議会 26日 研究協議会 全体会
9月中旬～	必要関係書類の提出	文部省・厚生省（会長、他）
12月20日(金)	報告書の刊行	A 4、250部、20 P （うち、写真 2 P）

上記のとおり提案します。

平成 8 年 7 月 25 日

会長 井上 輝之

平成 7 年度 全国高等学校長協会家庭部会 福祉科高等学校長会会計決算報告

収入決算額 515,205 円
支出決算額 489,694 円
差引残高 25,511 円

1 収入の部（単位：円）

科 目	予 算 額	補 正 予 算	予 算 現 額	決 算 額	比 較 増 減 (△) 額	摘 要
会 費	365,000	0	365,000	365,000	0	年会費 5,000円×73校
繰越金	0	0	0	0	0	
雑収入	1,000	149,205	150,205	150,205	0	預金利子(¥205)・主管校より(¥150,000)
合 計	366,000	149,205	515,205	515,205	0	

2 支出の部（単位：円）

科 目	予 算 額	補 正 予 算	予 算 現 額	支 出 額	残 金	摘 要
総務費	174,020	0	174,020	152,490	21,530	
会議費	30,000	0	30,000	0	30,000	理事会 年 2 回
印刷費	10,000	0	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅 費	102,420	0	102,420	92,820	9,600	事務局 3 人分総会派遣費 (交通費・日当・宿泊費等)
通信費	31,600	0	31,600	49,670	△ 18,070	加入案内80円×100校 報告書郵送270円×90校(理事他を含む)
事業費	151,980	150,000	301,980	337,204	△ 35,224	
報告費	150,000	150,000	300,000	282,980	17,020	A 4 版、20頁・写真16点 表紙コットン系250部製作
印刷費						
総 会 補助費	0	0	0	0	0	
雑 費	1,980	0	1,980	54,224	△ 52,244	封筒印刷・写真・印鑑
予備費	40,000	△ 795	39,205	0	39,205	
合 計	366,000	149,205	515,205	489,694	25,511	

上記の通り、報告いたします。

平成 8 年 7 月 25 日

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長

井上 輝之

監査の結果、適正に処理され相違ないことを認めます。

平成 8 年 5 月 23 日

福祉科高等学校長会監事
(千葉県立松戸矢切高校)
福祉科高等学校長会監事
(栃木県立真岡北陵高校)

本 田 良 夫
安 野 弥 一 郎

平成8年度
全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計予算

1 収入の部(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘要
会費	485,000	365,000	120,000	年会費 5,000円×97校
繰越金	25,511	0	25,511	
雑収入	10,700	150,205	△ 139,505	預金利子・報告書1,300円×8冊
合計	521,211	515,205	6,006	

2 支出の部(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘要
総務費	187,017	174,020	12,997	
会議費	40,000	30,000	10,000	理事会 年2回
印刷費	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅費	87,017	102,420	△ 15,403	事務局1人分総会派遣費(交通費・日当・宿泊費等)
通信費	50,000	31,600	18,400	加入案内80円×100校 報告書郵送270円×120校(理事他を含む)
事業費	295,000	301,980	△ 6,980	
報告費 印刷費	270,000	300,000	△ 30,000	A4版、20頁・写真16点 表紙コットン系250部印刷刊行
総会 補助費	0	0	0	
雑費	25,000	1,980	23,020	封筒印刷・写真
予備費	39,194	39,205	△ 11	
合計	521,211	515,205	6,006	

上記の通り、提案いたします。

平成8年7月25日

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会長 井上輝之

研究協議会(主任部会)その1

25日(木) 14:30~17:00 飛鳥の間
司会 落合 光男

研究協議テーマ

1. ホームヘルパー1級取得の手続きと指導計画について

北海道釧路星園高等学校 佐々木幸子
平成4年福祉コース開設当初から検討していた事項であり、今年4月1日付北海道より養成研修事業の指定を受けた。

(1)体験学習及び社会福祉施設実習

「入所施設とは」「利用者の生活を知る」「介護職員の業務を知る」ことと、福祉の心を養うことを目的とし、校内外において様々なボランティア活動を推進している。また社会福祉施設実習を2年次1回、3年次2回、各2週間、合計6週間実施している。

(2)ホームヘルパー1級取得までの手続き

ホームヘルパー養成研修事業実施要綱に基づき2級課程と1級課程を段階的に取得する。各課程の概要、受講対象者及び研修時間、また研修会の指定申請手続きは、資料のとおりである。

(3)指導計画

中央法規出版「介護福祉士養成講座14巻」とホームヘルパー養成研修テキストの比較表を作成し教科で指導する。実習についても、2・3年時の施設実習で充当し、釧路市ホームヘルパーサービス事業、市内の病院の訪問看護への同行訪問によって、実施の予定である。

(4)今後の課題

①施設実習費(半分は市費負担)の他に生徒が負担することになる謝礼の問題が未解決

②実習施設、在宅介護の実習先の確保が大変。

2. 本校における現場実習の現状とその課題について

岩手県立一戸高等学校 佐々木 徹

(1)学校の概要

平成5年家政科から福祉科へ学科転換。国家試験を目指すAコースと、上級学校を目指すBコースとに2年次から分かれる。1年次から体験的な学習を軸に生徒の問題意識の高揚を図っている。

(2)現場実習の概要

①期間 6月下旬から7月上旬 7日間
9月下旬から10月上旬 10日間

②対象及び内容

○2・3年生 Aコース

○学校から実習先へ貸し切りバス等で移動し、実習終了後学校へ戻って報告する。特に2年生は基本的な指導を重視している。3年生で遠隔地の生徒は自宅から施設へ通っている。

(3)実習までの準備と流れ

2月中旬までに受け入れ要請訪問、3月実習依頼をする。6月受入先担当者との合同打ち合わせで連携をとる。生徒の流れは資料の通り。

(4)現場実習のかかえる課題

○実習内容について未整備の部分が多い。
○実習日数を増したいが、学校の行事・休業日を避けるなどを考えると増せないのが現状。

○巡回指導と授業との調整が大変。

○実習中の事故は、今のところ起っていないが、施設・利用者への保障、保険の問題等、先進校の実践を知りたい。

最後に、授業を多く欠きながらの現場実習には学校の理解が必要。生徒の実習後の変容を見て理解してもらっている。生徒の課題解決の力をつける上で現場実習を含めた授業は恵まれている。

3. 社会福祉基礎の授業について

青森県東奥学園高等学校 田中 泰恵

(1)学校の概要

平成元年に福祉科設置。平成6年から男女共学となり、現在福祉科7クラス。特殊教育学校との交流、施設実習等の体験学習を通して「心」を育てることに主眼を置いている。

(2)社会福祉基礎の学習

意識調査を行なった。内容は資料の通り。結果は、1年生は社会福祉基礎は苦手な難しいという回答が多い。医学一般は苦手や難しいが好き。授業についても進み方が速くてよく分からないが多い。考察としては、1・2年生の半数近くが苦手、難しいと感じているが、多くの生徒が困難さの中で努力をしているという気がしている。3年生は、興味が分散している。難しいと感じている科目の対象が他へ移っている。教師が好きで教えている事は生徒がついてくる。

ショートテストの活用については、知識の定着

を図るために毎回行った。何度か繰り返す事によって学習してくる生徒は結果が出てくる。体系が分かってくる。ポイント学習及び復習。しかし2割程の生徒は負担に感じている。基礎的な事はおさえなければならぬので、この形を取っている。

授業展開に関して、昨年の時数は資料の通り。生徒が頑張ったと思う事柄と授業配当時数がほぼ一致している。問題としては、ショートテストに実施により授業を圧縮せざるを得ない。40分をゆとりを持って展開するための方法として年間計画を生徒に展示するシラバス、サブノートの作成を行っている。教師の技量を高める研修の機会が増える事も望んでいる。

(3)福祉の視点を育てるといこと

お年寄のいる家庭で娘から母親が教わる事が多いとの話を聞いた。お年寄への声かけ通院介助等学習した内容が家庭で生かされている。勉強して良かったと言う生徒がいる。心が磨かれている。

県の総合社会教育センターの生涯学習ボランティアモデル学習事業の指定を受けている。

体験をしっかりした後立てとして考えるという事で理論学習を位置付けて行ければ良いと思う。

質疑応答

(静岡女子)

現場実習における夜勤の扱い方を知りたい。

(一戸)

1回の実習で1日実習している。

(一関第二)

2・3年生で1日ずつ。遅番で入って翌日休み。

(不動岡誠和)

訪問看護の受け入れ人数と同行訪問の形態は。

(釧路星園)

資料は1日の人数ではなく、1施設の受け入れ総数。同乗同行を前提として依頼している。

(大野東)

同乗同行しており、生徒は保険に加入している。

(不動岡誠和)

生徒の住んでいる地域の社協へ依頼の予定。同行訪問はプライバシーの問題等あり検討中。

(上野商業)

チーム運営方式・ケアマネージメントの実態は。ホームヘルパー利用者の承諾はどうとるのか。

(釧路星園)

釧路ではチーム運営方式。今後内容の検討。利用者には社協、病院を通じて了承を得てもらう。現場の方からまず情報を提供していただく。

(上野商業)

チーム運営方式については社協の地域福祉コーディネーターから指導していただいている。生徒に卒業試験等をさせるべきではないか。

(野津)

本当に1級まで取得可能か。大分県では高校生はカリキュラムの2倍の時数必要。厚生省の基礎に県によって格差があるのか。

(司会)

全国で1級取得を考えているのは40校である。

(光星)

今年卒業生まで1級。校内選考を行っていた。

(八海)

今年度は2級。ヘルパーの募集年齢が高いのが現状。2級取得後、さらに研修を積ませたい。

(川崎)

川崎市ではホームヘルパー登録者数が多く供給が飽和状態。受け入れが厳しい。事故保障についての具体例を知りたい。

(函館大妻)

川崎市では飽和状態でもその周辺に、需要があるのではないかと。函館でも同様である。

(釧路星園)

釧路市でも社協のヘルパーは有資格者が半分。学校で研修して欲しいと依頼される。

(司会)

事故保障についてはどうか。

(三島)

民間の保険会社でお願いしている。生徒は学校健康センター。ボランティアは町の社協で対応。

(司会)

全校生徒がボランティア保険に加入している。

(多良木)

別件で質問。実習の評価に施設による格差は出ないか。事前打ち合せ・評価の割合を知りたい。

(一戸)

評価は施設と検討。施設で記入のない部分は教師が聞き取りをする。日誌、出勤簿、実習のまとめ、礼状、感想文、評価票等すべて総合して評価

している。評価の観点は具体的に提示している。

(村田)

1日の実習時間、単位は。交通費の総額と1施設への実習費はどのくらいか。

(一戸)

2年生はHR後出発し、学校着4時頃。3年生はHR前出発で、施設には4時半まで。自宅からの生徒は日勤と同じ。2年生、3年生各3単位。交通費は総額150万円程度。

(司会)

助言をお願いしたい。

(厚生省澤田信子先生)

まず誰のための介護であるのかを考えなければならない。介護福祉士養成校と高校で時間数が一緒だからという物の見方はできない。教育の質の違いがある。基本的には高卒後2年の専門教育である。ヘルパーの中で常勤は3割、非常勤は7割。8年度の1級研修終了予定者は5,100人程度。公的介護保険の中では、高い介護の質が求められる。その中で生き残れるような、多くの課題に挑戦し、乗り越えられる生徒を育ててほしい。ケアマネージメントについては非常に難しい内容である。

本当に貴重な人材であるので、国家試験に合格するまで卒業後も高校で指導してほしい。先生方が地域のヘルパー研修を受けられてはどうか。社協、地域とのネットワーク作りをし、地域の介護力、福祉力を上げる事が大切である。

(文部省 河野公子先生)

資格をどうとらえるのかという点が福祉科の今後のあり方に関係する。介護福祉士受験資格とヘルパー1級の両方をする事に学校五日制との関連で無理があるのかもしれない。1級は難しく高度な事を求められている。高校の目指す事は何か。現場実習についても、進め方など今後さらに検討が必要であろう。

教育を考えた場合、評価がある。誰が評価するのか。実習先での評価と、学校で指導している教師がする部分とがある。実習先にすべてまかせていいのか。うまく検討しないと受け入れ施設がなくなるのではないかと。具体的な資料を持ち寄っての検討がこの協議会で必要になってくるのではないかと。

この後情報交換やネットワーク作りを。

(司会)

明日は、今日の協議をふまえて1校1分程度の情報交換を。

研究協議会(校長部会)その2

26日(金) 9:00~10:00 白鳳の間

(司会丸山哲朗)

昨日、戸山校長から教育課程審議会に福祉科の位置づけを校長会として要望すべきとの提案があった。井上会長にお話しを承りたい。

(井上会長)

平成7年度に校長会として要望書を出している。来年5月の理事会で平成9年度にむけ要望書の起草委員会を結成する。

(丸山)

文部省から福祉科の資料提供が求められたら事務局を中心にして一早く提供することになっている。正式の意見表明でなくとも文部省に反映できるとの理解でよいか。

(戸山)

日向係長さんにお聞きしたい。

8月から教育審議会が始まるので現在の段階で働きかけなければ機会を逸するとの認識を持っている。こちらの方から働きかけなければ、文部省に取り上げてもらえないし、今の段階で本会の働きかけがなければ無理ではないか。

(文部省日向係長)

どのタイミングでやるのが良いかとのことは、個人的な意見でこの時期にやることはいいことだ。

教育課程審議会が始まる前に、校長会からの要望があると、河野調査官や私も働きかけやすくなるメリットがある。

(丸山)

校長会の研究協議会ではあるが、我々の学科の将来につながる大事な問題である。

井上会長を中心に理事会で今後のとり扱いをお任せすることでお互いに理解しておく。

昨日の会の中で家庭部会からの独立が問題となったが、家庭部会事務局長、堀内先生のお話をいただきたい。

(堀内)

この福祉科校長会は、会員校数も増えているのでやがて時機をみて独立すると考えている。校長会で時機を慎重に審議され意志決定をすると良い。

その後、全国高等学校長協会では1つの部会として承認されるためには、学校長協会の規約第5条の規約改正をして全国高等学校長協会の総会にかける手続きをすることとなる。

(丸山)

今後の手続きという問題を承知した上で取り組まなければならない。

研究協議(4)実習施設の確保と実習のあり方について協議したい。

(静岡三島)

① 22の実習施設があるが、専門学校との競合で施設の確保が大変となってきた。施設確保のため本校職員と施設側との懇談会を持っている。施設との関係を保つため何かやっているか。

② 生徒の交通手段では学校のバス、レンタカーを使い生徒の送迎をしており費用がかかっている。

(丸山)

本校は11施設であるが、三島高校と同じく学校内で定期的にやっている。

挙手によって全体の雰囲気をつかむこととする。

① 実習施設との交流を図っている学校 23校
" " 図っていない学校 13校

② 実習施設への交通手段が自己負担 26校
何からの方法で学校負担、公費負担 8校

(丸山)

学校公費負担の学校の形態を聞かせてほしい。

(秋田合川)

スクールバスが町から提供されている。4施設で生徒の実習先も少ない。

(福知山淑徳)

学校負担として挙手したが半々である。スクールバスで数園行っている。朝から行く場合は生徒達はバスで行っている場合もある。

(岩手一戸)

今年度から県費となった。生徒の個人負担が大きかった。学校周辺の者は公的なバスを借りて3施設位の送迎、他の3施設はタクシー分乗の送迎、かなり遠隔地の生徒は自宅近辺の施設にお願いしていて大変な費用がかかる。

③ 施設実習の謝礼について

(広島黒瀬)

県立学校の謝礼の実態を知りたい。本校は県費で1日550円×人数分である。

(宮崎高原)

宮崎県では3校あり、2校がすでに施設実習に入っている。他校では、1回につき5,000円徴収しているが、本校は地域的に貧しく1回に3,000円集めている。他県では県費助成がある実態を持ち帰り県教委に働きかけたい。

(丸山)

広島黒瀬では1日550×10日で5,500円、本校でも2年生10日、3年生も10日で、1日500円を法人負担で生徒の実験、実習費で出している。

公費負担の学校 17校

私立は法人負担、公立は公費となっている。

(埼玉不動岡誠和)

文部省の研究開発にむけ平成5年度の29校の調査資料が残っている。

(丸山)

高等学校でも専門学校並みの1,000円程度の謝礼をしている学校は挙手によると4校である。

全額でなくとも県費助成のある学校 13校(福井、茨城、滋賀、栃木、千葉、福岡、静岡、広島、埼玉)

④ 実習期間、実習時期

(丸山)

本校は2年生10日間、3年生10日間で、2年生3学期(1月)、3年生5月である。専門学校の影響で不利な状況となっている。

3週間以上の実習を2年、3年のどちらかで組んでいる学校は10校である。

(愛知高浜)

実習施設の協力が専門学校との競合で得にくい。

(丸山)

特殊な事情ではなく、全体的にその傾向となってきている。教育課程上の実習の他にホームヘルパー実習も加わると難しい。

今、学校と施設との相互信頼関係の上、成り立っているが、県やその他の機関が学校を支援しているところはない。学校の自主努力しかない。

(丸山)

(2)福祉科教育の理念で高浜高等学校からの主旨を話してほしい。

(愛知高浜)

職業高校の専門性の追求と高校としての普通教育のバランスの問題がある。学校としてどちらを重点とするかをどのように考えるとよいのか。

(丸山)

この問題は、昨年学芸大教授、高橋智さんの講演があり、その時に両論が出た。

この件は半日かけても解決はつくものではない。昨年、函館大妻高校の戸山先生からも話があった。

(函館大妻)

本校は国家試験至上主義ではない。技術、専門性を高める背後に学校全体でボランティア活動を含めた福祉の心を育ててきている。福祉の心を育てながら実際の技術の結果が介護福祉士をめざす。そのような共通の基盤の上で技術的な専門教育を施している。相反するものではない。

(丸山)

高等学校の福祉科が宿命的に持つ福祉の理念と専門性の追求の両立問題である。校長としても理念的なものを追求しておくことは福祉科を経営する学校として必要である。

静岡三島高等学校からも福祉科の目標についてあるが今のことと同じでよろしいか。

⑤ 卒業後の進路について

(丸山)

残念ながら時間がない。来年、福井県大野東高校の主管でこの議題を出して行くと良い。

(丸山)

最後になるが、文部省初等中等教育局日向係長さんからお話をいただく。

(文部省日向係長)

制度上、学習指導要領で複合的な学科の一例となっているところに大きな問題があると個人的に思う。科目が家庭と看護の両方にまたがる福祉科の位置づけは、今後文部省での検討事項になると思う。

中教審を受けて教員養成のあり方、定数配置改善計画の見直し等で今後文部省も働く時期である。

校長会として、福祉科全体の現状や要望をできるだけ早い時期に教えてもらえると良い。

資格取得と教養的な教育バランス等の問題があったが、世界各国で職業教育は問題関心が高い。

資格取得は文部省でも奨励している。生徒の学

習意欲、1つの目標ともなる。

出口の問題は、大学入試も多様化してきている。各種大学の学部長会議等で専門高校卒業選抜の導入をお願いしている。

21世紀医学医療懇談会の報告書の中に福祉科の卒業生の受け入れについて記述されている。産業教育の中にも近々載せる予定である。

課題が多く、私どもも頑張る意を新たにしたい。

研究協議会(主任部会)その2

26日(金) 9:00~10:00 飛鳥の間

(司会・松本寿子)

議題提案は昨日2点ほど申し出があった。それぞれの先生方をお願いしたい。

(一関第二)

生徒がどのような気持ちで入学してきたのか、どのような教科が自分に影響をおよぼしてきたかという部分を抜粋した資料を説明させて頂く

(資料・横浜国際福祉専門学校、専任教員・宮脇文恵・全国高校福祉科・福祉コース実態調査報告)

資料より、生徒は知識だけではないことに気付いたようだ。教師の意識の問題点があるのではないか。進路については継続的な推薦枠が必要。

(司会・松本)

生徒が入学してから卒業までの心の変遷について報告していただいた。次の議題をお願いしたい(函館大妻)

福祉教育カレッジの資料をみてわかるように、模擬試験の成績の出し方が変わった。全国との偏差値の比較ができる。公開模擬試験の先生方からの指導に役立てていけるようなかたちをとった活用してほしい。

(司会・松本)

模擬試験の解析について質問、意見はないだろうか。議案2点、昨日の話し合いについて何かあれば発表してほしい。

(八代農業)

本校は平成6年学科改編で今年度が完成年度。生徒の進路希望は福祉関係が多い。しかし、年齢構成・性別・臨時採用等で就職は難しい。進路

指導、職場開拓について話を聞きたい。

(大垣桜)

本校は平成6年学科開設で今年度が完成年度。

6月の初めに学科紹介、説明会を各施設に行った。約30の参加施設があり、約半数の施設から求人きた。就職はのりこえたが、相手が望むのは資格取得者でありその方の検討が必要。進学のおすすめがなくて大変心配。

(司会・松本)

各施設に対して行う説明会は目新しい意見であった。

(上野商業)

推薦の特別枠については大学側に福祉科の内容を理解してもらう努力と、生徒個人の細かいデータの説明が必要。

近隣施設の就職状況も難しい。生徒をうりこみ必ず確定数の採用が得られるよう信頼関係を作る努力が必要。進学に関しても同様と考える。

(司会・松本)

推薦枠はあるが生徒がいない。逆に推薦枠がないが生徒はいると両極端の悩みに対し意見はないか。

(川崎)

進学に関してだが規定のない推薦枠をもつ学校を選ぶのも一方法。体験入学で推薦枠を広げている学校もある。

入学後生徒が困らないように補習学習も必要。

(吉田)

校長会で専門高校の推薦枠の要望をしてほしい。

(司会・松本)

3回目以降の本会の希望を話してほしい。

(山辺)

骨髄バンクのドナーをした生徒の欠日数の扱いについて考えを聞きたい。

(司会・松本)

自分の祖母の介護で3週間欠席した生徒がいた。特例として欠席を考慮して頂いた。

(岡山女子)

文部省へ学科の位置づけの明確化をただ要望するのではなく、皆で団結し、資料をもって校長会へお願いし、校長会からも動いてもらいたい。

(函館大妻)

福祉科ははまだ“その他の学科”となっている

この部分が解決されると教員確保の問題、教科書の問題が解決される。学科主任会議として教育課程審議会や中教審への考えを校長会への要望として決議していただけるだろうか。

専門職の養成に関する実習、授業のもち方、あり方のディスカッションの場が必要。

学科主任会議を組織化・細分化することでより活発な意見がでるのではないか。

来年度の本会に公開授業をまじえることを提案したい。校長会が直接我々に指導してほしい。

(事務局・落合)

理事会の場で①一般の会社関係の印刷物や自分の必要な書籍を選べるコーナーを作ってほしい。②情報を集約し調整する場を学科主任会代表者会議という名で開催したいという2点をお願いした。

(司会・松本)

①大学の推薦枠を広げてほしい②学科の位置づけ③代表者会議の開催の三つがだされた。3点を総意とし取りあげ、意見を出してほしい。

(松戸矢切)

学科主任会議を通じ考える時間がほしい。委員会設置をこの場で決議するのか。

(上野商業)

福祉科の目標・目的が岐路に立っているのではないか。各地域性を考えると、全国一律の指導体制に危険性はないのか。

(事務局・落合)

どのようにこの組織を運営するのがベストかを大きな視野にたってみなくてはならない。現段階で委員会組織は難しい。一つの段階として考え、未解決の問題を集約してはどうか。要望書の内容が具体的にどのような動きの中にあるのかキャッチできていない。どのようなパワー、エネルギーが必要か意見を出しあっているような主任代表者会議になればと思う。

(司会・松本)

代表者会議の代表者を決める。決めるのはまだ早いという2つの意見について聞きたい。

(福知山淑徳)

全国8ブロックごとの集まり、その中から代表者を1名決め委員会組織をしたらよいのでは。

(司会・松本)

代表者を選ぶということには様々な意見がある

と思う。これらについてアンケートはどうか。代表者をつくるのに賛成。まだ早いもう少し検討の必要がある。いずれかに拍手をもって意志表示してほしい。(賛成が多い)

(事務局・落合)

代表者を決めることに関し、各ブロックの意見を聞くのは時間的に難しい。そのため事務局に考えを一任させてほしいのだが。

(多良木)

福祉科組織の考え方と普通科組織の考え方では考え方に違いがあるのではないか。そのため、カリキュラムの考え方を考慮し、それをふまえた人選と委員会にしてほしい。

(司会・松本)

全国高校福祉科の今後については、代表者を選ぶ。そして、それは事務局に一任するということが本会を閉じたい。ありがとうございました。

部会報告

26日(金) 10:10~10:40 飛鳥の間
司会進行 酒井 玲子

校長部会報告

丸山哲朗(岡山女子高等学校校長)

校長会総会では、理事会で協議された学科主任の代表者で組織する学科主任会の設立について了承した。来年5月の校長会理事会開催と同じ頃に結成されて良いが、その際、校長理事会と協調関係を持ち、意見の集約と協議、反映をして行ってほしいとの意見があった。

研究協議会では、福祉科専門教員の確保が問題となった。学習指導要領上に福祉を教科として位置づけがあれば、教員確保ができる。文部省や関係当局、中央審議会や教育課程審議会へ反映させる必要を校長全員が認識した。理事会等で機を逸することなく、今年度内発足の教育課程審議会等への反映に努めて行かなければならない。

さらに実習施設の確保、実習のあり方等について、全国的な傾向を数でつかんだ。

福祉科教育の目標についても、資格取得か福祉マインドの体得とするのか話題となった。

卒業後の進路に関わる諸問題は、高等学校福祉科の出口の二重構造、三重構造という難しい問題

を抱えて来年の福井大会まで持ち越しとなった。

主任部会報告

小林香代子(福井県立大野東高等学校)

- ① ホームヘルパー1級取得に関する事。同行訪問時は同乗同行を依頼している学校や、保険をかけている学校、地域の近い所を訪問の学校等があった。今後も考えて行く必要がある。
- ② 実習中の事故保障について、対利用者への1つの方法に安田火災で1日1人190円の保障内容のものがある。
- ③ チーム運営方式業務実習を生徒に理解させるために、教員側が地域の方々と連携し協力体制を取りながら研修を積む。実習前に生徒がコーディネーターから講義を受ける方法もある。
- ④ ホームヘルパー1級取得のある学校40校、2級取得とした学校は6校であった。新カリキュラム申請の段階で2級取得にした学校もあった。
- ⑤ 夜勤実習の発表について、18才未満の夜勤について質問があった。
- ⑥ 評価の観点、内容と割合についても話し合われた。
- ⑦ 1日の実習時間と単位換算の意見と質問があった。
- ⑧ 澤田先生の講評では、ホームヘルパー1級資格は介護福祉士の資格が取れない場合の資格取得と考えてはならず、誰のための資格であるかを考えてほしいとのことであった。
地域とのネットワークを作りながら生徒の指導に当たるようにとのことであった。
- ⑨ 河野先生の講評では、資格の捉え方、現場実習と実習評価も今後検討が必要であることと今後本音で語り合えるネットワーク作りをして行く会を作ってほしいとのことであった。
- ⑩ 一関第二高等学校、矢幅先生の「全国高校福祉科・福祉コース、実態調査報告」と函館大妻高等学校、池田先生の「福祉教育カレッジの全国公開模擬試験偏差値と国家試験合格率」の2つの提案があった。
- ⑪ 主任代表者会議設置の要望をして、この主任代表者会議で今後大会の運営や学校の位置づけ等を話し合う会にする事で一致した。

指導講評

10:40~11:00

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官
河野 公子先生

福祉科という学科の定義が十分できていないため学校基本調査の中で福祉科についての数字を把握することのできない現状の中、矢幅先生の「全国福祉科基本調査」は大変有難い調査である。今後も継続調査し校長会への資料提供をお願いしたい。

その調査の中で、「課題研究」の扱いについては、文部省は介護福祉士受験資格に対応したカリキュラム設定校の「課題研究」の原則履修を外していることをここで確認したい。

介護福祉士の受験資格に38単位の教科科目履修修得がある。その中の選択科目で「家庭経営、住居」は旧カリで示されたままである。「家庭経営、住居」は旧指導要領なので実際にはこの科目を置くことは教育課程上おかしいのである。生徒の受験に不利にならぬよう考えると、選択科目を福祉か看護にすると受験に対応し、有利である。

この旨を産業教育の中、「質疑応答シリーズ」に書いた。

教科書、テキスト作りの取り組みの報告があったが、適切な高等学校用のテキストを作ることは大変良いことで是非進めていただきたい。

9巻発行の予定の中に、家庭1巻と看護2巻も用意があるとのことだが、家庭、看護には文部省検定教科書、著作教科書がある。これらの使用義務があるので、家庭、看護のテキストはだぶって使うことになる。看護、家庭科は福祉科なりの重点を置いた適切な副教材を作り、6巻だけ福祉の教科書にすると良い。

校長会で学科主任会設立を了解されたが、校長会と学科主任会とは検討する課題の視点が多少違うが、あくまでも協調路線で互いに各々の面をカバーしながらこの会が充実するように持って行ってほしい。

進学に関して、専門高校からの入試選抜におけ

る要望書が校長会から関係各方面に出されている。福祉科の校長会からも是非働きかけをしてほしい。

校長会としてまとめた形での要望を出す方法と各々の学校が地域にある大学、短大へ個別に働きかけることも同時に行ってほしい。

「21世紀医学医療懇談会」の第1次報告の中、21世紀のいのちと健康を守る医療人の育成をめざしてという報告書がある。この文書を受けて是非働きかけをしてほしい。

本会が拡大の方向で充実してきているが、学科、コース等により目標が違っているため、一堂に会しての研究協議が自校の課題と異なる方々もあったようである。

厚生省の澤田先生からは、マンパワー養成として何を期待するのかを大變的確なご指導をいただいた。

各々の学校の重点を見失うことなく教育を進めて行ってほしい。

1点気になったことに、現場実習での夜勤の扱いがあった。高等学校の授業時間を超えた夜勤実習することの意味を文部省に持ち帰り検討する。

福祉科の明確な位置づけへの要望については、教育課程審議会や発足予定の理科教育、産業教育及び審議会の産業教育分科会の中で取り上げたい。先生方の声を資料と共に速やかに出してほしい。

いろいろな課題を解決するために、このような福祉科の組織が大事である。この会の発展充実を期待している。

閉会行事

11:10~11:30

- 1 開会のことば
兵庫県立日高高等学校長 (伊藤 誠)
- 2 主催者あいさつ
全国高等学校長協会家庭部会理事長 (大塚 雄一)
歴史の浅い部会の抱える問題は多いと思うが、これから益々、校長部会、学科主任会が連携を密にして発展されるよう祈念する。

現在家庭部会の中で一緒に活動しているが、本会の独立には全国校長部会の1つになることである。現在15の部会がある。学科として承認されて学習指導要領の中に位置づけられることが必要である。

産業教育中央会からの平成8年度、9年度の要望の中に、「家庭に関する学科における実習助手の増員」が入った。要望項目となることが一歩前進につながる。出口の問題は、産業教育振興会が平成6~7年にかけて、各大学に要望書を提出している。このような努力をしているので、この福祉科校長会、学科主任の先生方の勢いが福祉科教育や部会の充実に進んで行ってもらいと幸いである。

全国福祉科高等学校長会長
(井上 輝之)

2日間の総会に臨み、それぞれの先生方が熱いエネルギーを燃やし、学校内での努力を感じた。

15期中教審発表の後、教育課程審議会または新学習指導要領の告示という段階上で文部省、厚生省にこの組織の要望を反映したい。総体的な要望事項は平成7年度に出した。

9年度にむけて来年5月第1回理事会で要望書起草委員会を用意し、各関係省庁に要望をお願いする。

課題の多さに比べ、研究時間は少なかったが、課題を認識したことは、大きな成果を得た総会であった。

3 次期主幹校あいさつ
福井県立大野東高等学校長 (前田 孝)

4 主管校あいさつ
北海道釧路星園高等学校長 (渡部 義徳)

5 閉会のことば
岡山県岡山女子高等学校長 (丸山 哲朗)

北海道大会を終えて

北海道釧路星園高等学校長 渡部義徳

平成8年度の第2回大会が、井上輝之会長はじめ役員諸氏のご高配のもと、文部省、厚生省のご来賓も混えて熱心な協議により盛会裡に終えることができました。主管校の役目を無事つとめさせて頂きましたことに、まずもって心からお礼を申し上げます。

7月下旬といえば夏の真盛りですが、当日の釧路は肌寒く濃い霧雨でしたが、会場では熱い研究協議が催されました。

海霧深しドラ叩くまで釧路の夜
落合水尾 (事務局長)

この句に表現されている如く、成果のあった大会ではなかったでしょうか。

高校福祉科教育への期待が高まる中での大会でしたので、来賓の挨拶の中にも、評価が高いものがありました。また講演では、福祉そのものの基本的な考え方が述べられ、その中で、知識、技術に加えて、人に対する真心のこもった関心を生徒達に育むことが非常に大切であることを力説されました。私も同感。感銘深く聞き入ったところです。

校長部会では、福祉科の現況と今抱える問題点について協議し、各校長の苦勞がよくわかり、それだけに各校長の事にあたっての熱意が会場を一層熱くしました。

学科長・主任部会では、実務的な研究や情報交換がなされ、今後は学校の範囲だけでなく、各地域で各団体との連携をさらにすすめることの必要性が認識されました。

先行きいかに不透明な時代とは云え、確実にやってくる高齢化社会です。このような時に、高等学校福祉科は、介護福祉士養成の一翼を担うとともに、福祉への共感をもった生徒を育て、今後の福祉人材を育てる大きな役割を担っています。

制度上、不備の多い中で、参加した60校の各校長・学科長・主任の方々の奮闘が日夜続いているわけです。

この第2回大会を通して、全国的傾向と流れを汲み取り、自校の実態を十分把握した上で更なる発展を目指さねばなりません。その意味でも、参加者の皆様に、大きな土産をお持ち帰りいただいたものと思ひ、主管校として喜びを分かち合いたいものと思っています。

「手作りの大会」を相言葉に準備してまいりましたが、成果の大なることに免じて至らぬ点、お許し願えれば幸いに存じます。

終わりになりますが、全国家庭部会大塚雄一理事長並びに前年度主管校の静岡県三島高校の川口保一校長はじめ理事の方々から多大なご指導とご配慮を賜りました。改めてお礼を申し上げます。

組織充実と教育振興

73校加盟 全国福祉科高校長会設立

「高校福祉教育の充実と発展をめざして一ひびく・ひらく高校福祉教育の出発」をテーマに、全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会（会長井上輝之・埼玉県立不動岡誠和高校長）の設立総会が10月12・13両日、静岡県伊豆長岡町のホテル富士見ハイツで開かれた。三島高校が主管校。

参加したのは加盟73校から校長40人、学科主任54人の計94人のほか来賓として文部省から日向信和企画調査係長、河野公子調査員、厚生省から岡河義孝資格・試験係長、静岡県教育委員会から大野忠教育長ほか4氏、学校長協会から吉田昶家庭部会理事長ほか3氏。

開会行事に次いで高橋智・東京学芸大助教授の記念講演「高校福祉教育の課題と展望」や校長会の「福祉教育の充実と発展をめざして」、学科主任会の「社会福祉演習の活用」事例報告・実施内容報告などの研究協議などが成

功裡に行われた。第2回総会は8年7月24日から3日間、北海道大会（主管校は釧路星園高校）として開かれる予定。

現在、全国の福祉系高校として、「学科」「コース」「系列」「類型」を含める15校の設置が確認されている。9ブロック代表の理事で構成する理事会の企画・運営を軸に、組織の充実と福祉科教育の振興を図り、山積する施設・整備の充実、教員の確保、教科書・施設実習、介護福祉士国家試験対策、進路、ホームヘルパー修了証取得、介護福祉士の待遇保障などの課題解決のための積極的、主体的な対応が期待されている。

事務局は埼玉県立不動岡誠和高校内
(☎0485-61-6651)に。

(平成7年11月「福祉新聞」より転載)

協調・連帯・共存視野に

福祉科高校長会が北海道大会 全国から釧路市に106人 次は福井で北信越大会

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会（井上輝之会長）は、7月24・25両日、北海道釧路市のパシフィックホテルで、「高等学校福祉教育の充実と発展をめざして一ひびく・ひらく高校福祉教育の出発」をテーマに、北海道大会として、全国から106人を集め、第2回総会・研究協議会と学科主任研究協議会を開いた。

大会は、講演・全体報告会・研究協議、部会報告などを中心に、中教審が見落とした高齢社会の時代認識、その欠落を問題としながら、高校福祉科の山積する問題について協議した。

特に澤田信子、厚生省社会・援護局介護技術専門官の講演「福祉教育に期待されるもの」は、新ゴールドプラン・エンゼルプラン・障害者プラン、介護保険制度などの今日の福祉施策状況を紹介しながら、学校・企業・地域などの様々な場を通じて社会連帯意識の醸成や福祉教育の推進を図ることが重要であると力説、お互いが持っている優しい心と力を出し合い、一人ひとりの心豊かな暮らしが支えられるような活力ある福祉社会の建設をと訴えて感銘を与えた。

また、全体報告会では「全国福祉科高等学校基礎調査の分析結果」（矢幅清司・岩手県立一関第二高教諭）、「教科書編成の進行状況」（池田延己・函館大妻高教諭）などの報告があり、現状認識を深めるとともに今後の福祉科教育に期待感を高める機会となった。

その他、事例研究として、「ホームヘルパー一級取得の手続きと指導計画」（佐々木幸子・釧路星園高）「現場実習の取り組みと事故保障」（佐々木徹・岩手県立一戸高）、「社会福祉基礎の授業展開」（田中泰恵・青森県東奥学園高）などの発表をもとに質疑応答が行われた。

最後に、河野公子・文部省調査官が「協調・連帯・共存を視野に置いた充実した大会であった」と講評し、盛会のうちに終わった。

次期協議会は、北信越大会として福井県立大野東高が主管し、9年10月8・9の両日、福井県で開催する。

なお、同協議会への加盟校は、98校で昨年より25校増えており、今後の組織活動が期待されている。

(平成8年8月26日「福祉新聞」より転載)

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約

平成7年10月12日施行

(総則)

- 第1条 本会は全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会と称する。
 第2条 本会は全国高等学校長協会家庭部会の研究協議機関として、福祉科教育の振興を図ることを目的とする。

(組織)

- 第3条 本会は全国の福祉科(福祉科に準ずる)を置く高等学校の校長で組織する。
 第4条 本会は次の地区を設ける。
 1 北海道地区 6 近畿地区
 2 東北地区 7 中国地区
 3 関東地区 8 四国地区
 4 北信越地区 9 九州地区
 5 東海地区

(事業)

- 第5条 本会の目的を達成するために年1回の総会・研究協議会を開催するほか、研究活動、広報活動等を行い、また学科主任の連絡、情報交換、研究協議等の事業を行う。

(役員)

- 第6条 前条の事業を行うために本会に次の役員を置く。
 1 会長 1名
 2 理事 各地区 1名
 3 監事 2名
 第7条 役員は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たる。
 第8条 役員の出選方法は次のとおりとする。
 1 理事は各地区ごとに総会で選出する。
 2 会長は理事の互選とする。
 3 監事は会長が委嘱する。
 第9条 役員の出選方法は2年とする。但し再任は妨げない。
 第10条 本会の事務局は会長高等学校内に置く。

(会計)

- 第11条 本会の経費は会員校の会費で支弁する。

(付則)

- 第12条 この規約は平成7年10月12日から施行する。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧

(Noの○印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住	学科名 所	校長名 ☎番号	学科主任 F A X	
北海道	①	私	函館大妻高等学校 〒040 函館市柳町14-23	福祉科	外山茂樹 0138-52-1890	池田延己 0138-52-1892	
	②	村	留寿都高等学校 〒048-17 虻田郡留寿都村字留寿都179-1	農業福祉科	坂座 勲 0136-46-3376	島村真幸 0136-46-3386	
	③	道	置戸高等学校 〒099-11 常呂郡置戸町置戸256-8	生活福祉科	太田守男 0157-52-3263	三林礼治 0157-52-3263	
	4校	④	市	釧路星園高等学校 〒085 釧路市武佐4-28-10	教養福祉科	渡部 義徳 0154-46-1538	荒川 公子 0154-46-1538
青森	⑤	私	東奥学園高等学校 〒030 青森市中央2-15-10	福祉科	佐藤 弘 0177-75-2121	田中泰恵 0177-75-8375	
	2校	⑥	私	光星学院高等学校 〒031 八戸市湊町字上新井田道8	福祉科	中村 キヤ 0178-33-4151	田端利則 0178-31-6287
岩手	7	県	西和賀高等学校 〒029-55 和賀郡湯田町19-25-2	福祉教養科	佐野 弘一 0197-84-2809	西 絵美子	
	⑧	県	一関第二高等学校 〒021 一関市赤萩字野中23	福祉教養科	菅野 純孝 0191-25-2241	似内 晃 0191-25-5432	
	9	県	久慈農林高等学校 〒028 久慈市門前36-10	福祉教養科	徳田 石男 0194-53-4371	佐々木 瑞保 0194-53-2540	
	4校	⑩	県	一戸高等学校 〒028-53 二戸郡一戸町一戸字時前60-1	福祉科	高橋 信 0195-33-3042	佐々木 徹 0195-33-3933
宮城	1校	⑪	県	村田高等学校 〒989-13 柴田郡村田町大字村田字金谷1	総合学科社会福祉系列	官澤 邦彦 0224-83-2275	根本 英雄 0224-83-2276
秋田	⑫	県	大館桂高等学校 〒017 大館市餅田2-3-1	普通科家庭福祉コース	高橋 元 0186-49-1010	成田 多美枝 0186-49-1011	
	13	県	由利高等学校 〒015 本荘市川口字太鼓森7	生活科学科福祉類型	牧野 達夫 0184-22-3219	工藤 英子 0184-22-3220	
	14	県	西目高等学校 〒018-06 由利郡西目町沼田字新道下2-142	総合学科生活福祉系列	伊藤 甫 0184-33-2203	小松 富美子 0184-33-2203	
	15	県	雄勝高等学校 〒019-01 雄勝郡雄勝町下院内字小白岩197-2	普通科福祉コース	松野 隆 0183-52-4355	高橋 道子 0183-52-4356	
	16	県	増田高等学校 〒019-07 平鹿郡増田町増田字一本柳137	総合学科福祉系列	佐藤 良治 0182-45-2073	佐々木 勝子 0182-45-2088	
	6校	⑬	公	合川高等学校 〒018-42 北秋田郡合川町下杉字中島54-2	介護福祉科	谷口 賢一郎 0186-78-3177	増山 裕弘 0186-78-3278
山形	⑭	県	山辺高等学校 〒990-03 東村山郡山辺町大字山辺3028	福祉科	兼子 正克 0236-64-5462	奥山 留美子 0236-64-5462	
	2校	19	県	余目高等学校 〒999-77 東田川郡余目町大字廿六木字三ツ車8	総合学科福祉系列	知野 弘 0234-43-2138	渡部 絢乃

(Noの○印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X	
福島	20	県	光南高等学校 〒969-02 西白河郡矢吹町田町532	総合学科福祉介護系列	勝間田 敏 男 0248-42-2205	遠 藤 則 宏 0248-44-3373	
	2校	⑳	川口高等学校 〒968 大沼郡金山町大字川口字蛇沢2434-2	普通科社会福祉コース	懸 田 弘 訓 0241-54-2154	坂 内 孝 敏 0241-54-2240	
茨城	⑳	県	古河第二高等学校 〒306 古河市幸町19-18	教養福祉科	齊 藤 二 朗 0280-32-0444	鶴 谷 明 子 0280-31-6602	
	2校	㉓	八千代高等学校 〒300-35 結城郡八千代町大字平塚4824-2	普通科ヒューマニティー	吉 原 清 0296-48-1836	林 まち子 0296-48-3201	
栃木	㉔	県	真岡北陵高等学校 〒321-44 真岡市下籠谷396	教養福祉科	安 野 弥 一 郎 0285-82-3415	荒 井 智 子 0285-83-4634	
		㉕	塩谷高等学校 〒329-23 塩谷郡塩谷町大宮2579-1	社会福祉科	豊 田 敏 盟 0287-45-1101	小 林 弘 子 0287-45-0986	
3校	26	県	氏家高等学校 〒329-13 塩谷郡氏家町大字氏家2807	総合学科生活文化系列	青 木 克 美 0286-82-4500	半 田 郁 子 0286-82-0358	
埼玉 1校	㉗	県	不動岡誠和高等学校 〒348 羽生市大字神戸706	社会福祉科	井 上 輝 之 0485-61-6651	落 合 光 男 0485-60-1051	
千葉	㉘	県	松戸矢切高等学校 〒271 松戸市中央矢切54	教養福祉科	本 田 良 夫 0473-68-4741	清 水 幹 夫 0473-68-4396	
	2校	㉙	御宿高等学校 〒299-51 夷隅郡御宿町久保1528	普通科福祉コース	三 原 照 禮 0470-68-2911	丸 ひさ子 0470-68-6886	
東京	㉚	都	大泉学園高等学校 〒178 練馬区大泉学園町9-1-1	普通科福祉コース	芹 川 一 巳 03-3924-3185	前 田 朋 乃 03-3924-9411	
	2校	31	都	南高等学校 〒143 大田区中馬込3-11-10	普通科看護福祉コース	菅 根 宗 平 03-3774-0373	土 屋 幸 吉 03-3774-0325
神奈川	32	県	神奈川総合高等学校 〒221 横浜市神奈川区平川町19-12	普通科個性化コース・福祉類型	吉 崎 久 治 045-491-2000	金 子 善 政 045-491-3190	
		33	県	綾瀬西高等学校 〒252 綾瀬市早川1485-1	福祉教養科福祉教養コース	勝 田 文 隆 0467-77-5121	對 比 地 晃 0467-76-8199
		34	県	高浜高等学校 〒254 平塚市高浜台8-1	福祉科福祉教養コース	山 田 孝 祐 0463-21-0418	渡 邊 努 0463-23-7138
4校	㉓	市	川崎高等学校 〒210 川崎市川崎区中島3-3-1	福祉科	国 吉 卓 044-244-4981	金 谷 智 子 044-211-8295	
新潟	㉔	県	八海高等学校 〒949-66 南魚沼郡六日町大字余川1276	福祉科	五十嵐 駿 介 0257-72-3281	小野塚 美代子 0257-72-8878	
		37	県	十日町総合高等学校 〒948 十日町市大字高山461	総合学科健康・福祉系列	吉 田 東 美 雄 0257-52-3186	阿 部 孝 子 0257-57-9342
		㉘	県	高田北城高等学校 〒943 上越市北城町2-8-1	生活文化科福祉コース	濱 田 達 郎 0255-22-1164	長谷川 欣 子 0255-26-1579
4校	39	県	新井高等学校 〒944 新井市田町1-10-1	総合学科福祉系列	松 井 浩 0255-72-4151	0255-72-7529	

(Noの○印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
富山	40	県	八尾高等学校 〒939-23 婦負郡八尾町福島213	生活福祉科福祉コース	林 吉 之 0764-54-2205	桐 井 優 子 0764-54-2205
	2校	㉑	砺波女子高等学校 〒932-01 小矢部市清水95-1	生活福祉科	殿 山 美 喜 夫 0766-61-2040	加 賀 谷 恵 子 0766-61-2325
石川	㉒	県	金沢伏見高等学校 〒921 金沢市米泉町5-85	普通科人間福祉コース	中 山 修 0762-42-6175	平 野 優 0762-42-7458
	2校	㉓	田鶴浜高等学校 〒929-21 鹿島郡田鶴浜町上野ヶ丘59	健康福祉科福祉コース	山 田 邦 男 0767-68-3116	永 井 和 美 0767-68-2351
福井	㉔	県	大野東高等学校 〒912 大野市友江9-10	福祉教養科	前 田 孝 0779-66-4610	小 林 香 代 子 0779-66-5577
	2校	㉕	福井女子高等学校 〒910 福井市文京4-15-1	福祉科	荻 原 芳 昭 0776-23-3489	定 兼 絃 美 0776-21-2922
静岡	㉖	県	吉田高等学校 〒421-03 榛原郡吉田町片岡2130	福祉科	小 澤 巖 0548-32-1241	遠 藤 孝 子 0548-32-7831
		㉗	三島高等学校 〒411 駿東郡長泉町竹原354	福祉科	川 口 保 一 0559-75-0080	松 本 寿 子 0559-76-0735
	3校	㉘	静岡女子高等学校 〒422 静岡市八幡3-6-1	福祉科	足 田 宏 054-285-2274	佐 藤 完 054-282-2757
愛知	㉙	県	高浜高等学校 〒444-13 高浜市本郷町1-6-1	福祉科	丹 羽 幹 太 0566-52-2100	鋤 柄 由 美 子 0566-52-7059
	2校	50	宝陵高等学校 〒441-12 宝飯郡一宮町大字大木字鱧水445	家庭科福祉コース	原 田 英 夫 05339-3-2041	鈴 木 美 知 子 05339-3-2826
岐阜 1校	㉚	県	大垣桜高等学校 〒503-01 安八郡墨俣町上宿465-1	福祉科	酒 井 玲 子 0584-62-6131	渡 部 洋 子 0584-62-5608
三重	㉛	県	明野高等学校 〒519-05 度会郡小俣町明野1481	福祉科	浜 辺 恒 男 0596-37-4125	井 田 知 加 子 0596-37-4127
	2校	㉜	上野商業高等学校 〒518 上野市緑ヶ丘東町920	福祉科	鈴 山 雅 子 0595-21-1900	福 永 敏 子 0595-21-1923
滋賀 1校	㉝	県	長浜高等学校 〒526 長浜市平方町三反田270	福祉科	山 本 兵 治 0749-62-0896	北 村 哲 雄 0749-65-1340
京都	55	私	聖家族女子高等学校 〒622 船井郡園部町美園町1-78	普通科福祉コース	石 田 一 彦 0771-62-0163	藤 本 美 子 0771-63-0989
	2校	㉞	福知山淑徳高等学校 〒620 福知山市字正明寺36-10	保育科福祉コース	奥 田 弥 進 夫 0773-22-3763	松 下 亨 0773-23-5519
大阪 1校	57	府	松原高等学校 〒580 松原市三宅東3-4-1	総合学科地域福祉系列	松 重 亨 蔵 0723-34-8008	加 納 明 彦 0723-34-8142
兵庫	㉟	県	日高高等学校 〒669-53 城崎郡日高町岩中1	福祉科	伊 藤 誠 0796-42-1133	佐 伯 恵 以 子 0796-42-1648
	2校	59	県	新宮高等学校 〒679-43 揖保郡新宮町新宮27-1	福祉科	村 上 絃 揚 0791-75-0018

(Noの○印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
奈良 1校	(60)	県	榛原高等学校 〒633-02 宇陀郡榛原町下井足210	福祉科	福田 八郎 07458-2-0525	岡野 富美代 07458-2-7606
島根 1校	61	県	邇摩高等学校 〒699-23 邇摩郡仁摩町仁万907	総合福祉科生活福祉系列	沖野 利裕 08548-8-2220	増野 功美 08548-8-4417
岡山 4校	(62)	県	倉敷中央高等学校 〒710 倉敷市西富井1384	福祉科	三吉 肇 0864-65-2559	室山 学 0864-66-2832
	(63)	県	吉備北陵高等学校 〒716-11 上房郡賀陽町大字湯山1028	普通科生活福祉コース	石尾 康二 0866-54-1033	山部 信弘 0866-54-0933
	(64)	私	美作高等学校 〒708 津山市山北500	普通科介護福祉コース	石井 香苗 0868-22-2422	明楽 俊應 0868-24-6171
	(65)	私	岡山女子高等学校 〒700 岡山市下伊福西町7-38	社会福祉科	丸山 哲朗 086-252-2101	保住 芳美 086-253-0582
高知 1校	(66)	県	城山高等学校 〒781-53 香美郡赤岡町1612	普通科福祉教養コース	志磨村 幹人 08875-5-2126	曾我部 公彦 08875-5-0170
広島 3校	(67)	県	黒瀬高等学校 〒724-06 賀茂郡黒瀬町乃美尾1	福祉科	正守 憲之 0823-82-2525	黒田 京子 0823-82-2527
	68	県	世羅高等学校 〒722-11 世羅郡世羅町本郷870	生活福祉科	掛谷 春夫 08472-2-1118	羽田 善子 08472-2-5244
	69	県	吉田高等学校 〒731-05 高田郡吉田町吉田719-3	生活福祉科	田中 辰吉 0826-42-0031	井上 智恵
山口 3校	(70)	県	久賀高等学校 〒742-23 大島郡久賀町4851-2	福祉科	舩本 昭夫 08207-2-0024	山本 泰史 08207-2-0096
	(71)	私	中村女子高等学校 〒753 山口市駅通り1-1-1	介護福祉科	五十部 益一 0839-22-0418	河本 義満 0839-22-8063
	72	私	聖光高等学校 〒743 光市光井9-22-1	普通科社会福祉コース	西岡 尚之 0833-72-1188	河野 江利子 0833-72-1308
愛媛 4校	73	県	新居浜南高等学校 〒790 新居浜市篠場町1-32	総合学科福祉サービス系列	藤井 忠夫 0897-43-6191	定岡 秀美 0897-44-7447
	74	県	北条高等学校 〒799-24 北条市辻600-1	生活福祉科	磯田 昌三 089-993-0333	関谷 隆 089-993-0429
	75	県	川之石高等学校 〒796-02 西宇和郡保内町川之石1-112	総合学科福祉サービス系列	福地 勝哉 0984-36-0550	酒井 賀陽子 0984-36-0994
	76	私	松山城南高等学校 〒790 松山市北久米町815	福祉科	西村 義臣 089-976-4343	堤 勢津子 089-976-4348
福岡 4校	(77)	県	三井高等学校 〒838-01 小郡市松崎650	普通科福祉・教養コース	角 敏秀 0942-72-2161	吉田 雄作 0942-72-9064
	(78)	県	久留米筑水高等学校 〒839 久留米市山川町1493	社会福祉科	山崎 賢一郎 0942-43-0461	宮本 幾子 0942-45-0543
	(79)	私	杉森女子高等学校 〒832 柳川市大字奥州町3	福祉科	中村 義行 0944-72-5216	堤 昌子 0944-72-5218

(Noの○印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
福岡 4校	80	私	慶成高等学校 〒803 北九州市小倉北区皿山町15-1	人間科学科介護福祉士・福祉教養	鈴木 孝顕 093-561-1331	中村 浄志 093-561-4844
佐賀 1校	81	県	神埼清明高等学校 〒842 神埼郡神埼町大字横武2	総合学科生活福祉系列	前田 勝行 0952-52-3191	下村 浩子 0952-51-1017
長崎 1校	(82)	私	玉木女子高等学校 〒850 長崎市愛宕1-21-6	社会福祉科	前田 真澄 0958-26-6322	濱 廣子 0958-28-6837
熊本 5校	(83)	県	八代農業高等学校 〒869-42 八代郡鏡町大字鏡村129	福祉教養科	森 繁巳 0965-52-0076	南瀬 郁子 0965-52-5048
	(84)	県	多良木高等学校 〒868-05 球磨郡多良木町多良木1212	福祉教養コース	小山 忠 0966-42-2102	天野 守哉 0966-42-6986
	85	私	菊池女子高等学校 〒861-13 菊池市大字隈府1081	社会福祉科	荒木 修 0968-25-3032	中村 頌子 0968-25-3185
	86	私	城北高等学校 〒861-05 山鹿市志々岐798	社会福祉科	松浦 シズエ 0968-44-5809	馬場 誠也 0968-44-0747
	(87)	私	順心学園熊本フェイス女学院高等学校 〒861-41 熊本市南高江町2718		米光 聖 096-357-7151	下田 直美 096-358-3044
大分 3校	88	県	山香農業高等学校 〒879-13 速見郡山香町広瀬4706	生活科学科福祉コース	林 康弘 0977-75-1166	藤内 節子 0977-75-1165
	(89)	県	野津高等学校 〒875-02 大野郡野津町野津市537-1	普通科福祉コース	梶原 真蔵 0974-32-2031	藤田 泰子 0974-32-2119
	90	私	楊志館高等学校 〒870 大分市桜ヶ丘7-8	普通科福祉コース	井上 克己 0975-43-6711	玉江 和徳 0975-43-4516
宮崎 3校	(91)	県	妻高等学校 〒881 西都郡市大字右松2330	福祉生活科	横山 肇 0983-43-0005	杉尾 美紀子 0983-43-0005
	(92)	県	日南農林高等学校 〒889-32 南那珂郡南郷町大字中村甲3543	生活福祉科	松井 利一 0987-64-1177	井戸川 浜子 0987-64-1177
	(93)	県	高原高等学校 〒889-44 西諸県郡高原町大字広原4981-2	生活福祉科	木幡 隆雄 0984-42-1010	有島 正恵 0984-42-1270
鹿児島 4校	94	県	加世田常潤高等学校 〒897 加世田市武田14863	生活福祉科	掘苑 高峰 0993-53-3600	吉村 みちえ 0993-53-3601
	95	私	加治木女子高等学校 〒899-52 始良郡加治木町5348	医療福祉科	篠原 和秋 0995-63-3001	
	96	私	鳳凰高等学校 〒897-11 加世田市唐仁原1202	医療福祉科	鮫島 克郎 0993-53-3633	
	97	私	出水中央高等学校 〒899-02 出水市西出水町448	医療福祉科	表迫 勝之 0996-62-0500	川端 博美 0996-62-6677
沖縄 1校	(98)	県	陽明高等学校 〒901-21 浦添市字大平488	総合学科福祉サービス系列	仲宗根 惇博 098-879-3062	比嘉 加代 098-879-9520

(9月30日現在)

あとがき (諸連絡)

- 北海道大会報告書 (通巻2号) をお送り致します。
- 主管校の釧路星園高等学校の皆様には大会の設営のみならず記録についても大変お世話になりました。お蔭様で報告書も第1号よりは早目に刊行することができます。紙上を借りて深く御礼申し上げます。
- 報告については、出席できなかった学校のためにも詳細にと心がけましたが、すべてを網羅することはできませんでした。講演や研究発表の内容も要約した形でまとめましたので行間に込められた意味をお汲み取りの上、お読みいただきたく存じます。
- オリンピックがアトランタで197か国の参加のもと開かれている最中の北海道大会でした。加盟校98校 (出席校60校、出席者106名) による本大会が、夢に富む北海道の、しかも発展をとげている釧路市で開催できましたことは意義深いことでした。
- 会場となったパシフィックホテルの前には、旧釧路川が流れ、幣舞橋の彼方に河口を大きく開いているのが眺められました。高校福祉科のひびく・ひらく発展が、一つの景を通して祈るがごとく望まれました。
- 霧を突いて飛ぶ鷗 (ごめ) も、丹頂鶴の仲の良い風光も、また「神のごと遠くすがたをあらはせる阿寒のやまの雪のあけぼの」と詠んだ啄木の詩心も、そしてまた青々とひらける原野も未開拓の分野の多い福祉科に関わる私たちに、勇気と希望を与えるものでした。
- 中教審の発表したものによると、「社会の変化に対応する教育のあり方」との提言はあるものの、高齢化・少子化の認識の明言を避けて通っているように思われるふしを感じられます。福祉あるいは福祉の教育を重要と考えていないということではないでしょうが、積極的に推進さ

れるよう、一層留意を図らねばならないでしょう。

- 高校の福祉科の教育に低滞は許されません。一関第二高校の矢幅清司先生に高等学校福祉教育実態基礎調査をお願いしました。法的秩序の確立していない状況下における各校の努力には涙ぐましいものがあります。教育環境の整備については、努力だけでは解決できない面もあります。山積する課題の解決に向かって即刻対応を図り、着実に前進して参りましょう。

- 学科主任代表者会議が平成9年5月中旬に開催できる運びとなりました。現在のところ、教科書編集委員6名と前回及び次回主管校学科主任の計8名で、代表者会議を組織し運営する計画であります。要望等ございましたら、事務局または各委員にご連絡ください。

- 「社会福祉基礎」(中央法規出版刊)の教科書が大橋謙索先生のご指導のもと編集が進められております。平成9年度から活用できます。待ちに待った高校生のための教科書です。ご活用を推奨申し上げます。

・当会の充実と発展を祈念申し上げます。
(事務局)

北信越大会予告

とき 平成9年10月8日(水)・10月9日(木)
ところ 福井県立大野東高等学校 (主管校)
※ 後ほど、詳しくはご案内申し上げます。

(備考) 事務局所在地
〒348 埼玉県羽生市大字神戸706
不動岡誠和高等学校
TEL 0485-61-6651
FAX 0485-60-1051

(三重)
・「4-4履修方式業務実習」は三重県では上野市しかやっていない。
・1級のテキストでは4-4履修方式、ケーススタディについての記事が難しい。
・利用者への承諾は誰が行うのか、社協から依頼してもらっているのか?

④「一日看護婦」は希望者
・釧路市は老健センター 毎年1ヶ所ずつ設置
・現場の人に関心とわかる場合が多い

(三重)
・成績のよくなる生徒にも1級を与えていいのかなど思っている。
・夏休みに地域福祉コーディネーターの方から指導を受ける。(2日間) 社協、施設職員など特別講師として指導を受けている。

(大分 野津)
ホ-4ハルパー1級は、とくに難しいから2級

(光星学院)
今年93年卒は1級を取得していたから2級と程度を下げて、訪問看護用

(八海)
第1期生(平成7年)は、福祉コース1級 看護コース2級
第2期生は両コースも2級
ハルパーの採用年齢が1番若くて20歳(新潟市)は92、高校では2級でよいが、これはいいか。

(川崎市教委)
・津久井高校 福祉コース 2級取得、3年を1級を目指している。
・川崎市は前例がなかったと検討中。
ホ-4ハルパーは川崎市、登録数は多く、需要が少ない、余っている。
高校生のホ-4ハルパー1級研修は7月2年10月までに

(澤田)
・養成校は1800~2000時間 教員、実習施設。
ハルパー 常勤3割、非常勤7割
ハルパー1級修得 5,100(平均)
介護福祉士に合格したのでもホ-4ハルパーをとるのが、生徒のためにはいいか。
(現在ホ-4ハルパーで活躍している人に失礼ではいいか。
ケアマネジメントについての講義、衛星放送を使って実施(中)として

・「北海道婦人 支援センター」が主催で学校での研修として実施。
1級の研修指導者講習会を先生が受講して、指導者となる。
ホ-4ハルパーの研修を実施する予定

(熊本)
現場実習の評価について、施設
(宮城)
・17日間の実習 3年は8:30学校発、16:30帰宅、2年朝8時後、16時帰宅、2年3単位、3年、
・支店、総額 150万 一週二高(約90万)
・実習先への謝金 生徒一人8000円

【校長部会】
(理事長会)
・学科主任会、代表者会議を7月1日開催
・教員の不確保 (福祉の指導) 学習指導要領への福祉科の位置づけ
・要望書の提出 今後理事長会で
福祉教育の目標について
資格取得率、広く福祉科の育成
か、
実習の仕方、等々